

日本財団 ホームホスピスにおける入居者へのケアの効果に関する調査

1	調査概要	P2
2	調査結果サマリ	P5
3	住人のご家族さま・ご遺族さま向け調査	P9
	【ご家族さま・ご遺族さま】回答者／住人の方のプロフィール	P10
	【ご家族さま・ご遺族さま】ホームホスピス入居後の概要	P15
	【ご家族さま・ご遺族さま】ホームホスピス入居後の変化の詳細	P20
	【ご家族さま・ご遺族さま】ホームホスピスにおけるケア	P26
	【ご家族さま・ご遺族さま】ご家族さま・ご遺族さまの変化	P29
4	現場スタッフさま向け調査	P31
	【現場スタッフさま】回答者（スタッフ）プロフィール	P32
	【現場スタッフさま】ホームホスピスケアの実践	P34
	【現場スタッフさま】ホームホスピス勤務における満足度	P37
	【現場スタッフさま】ホームホスピス勤務におけるやりがい	P39

調査概要（ご家族さま・ご遺族さま向け調査）

調査背景 （共通）

- 現場レベルにおいて、ホームホスピスケアは有効であると考えられてきた一方、定量的な有用性の根拠が不足している状況。
- そこで、ホームホスピスケアの各ステークホルダー（住人のご家族さま・ご遺族さま、現場スタッフさま）を対象に、ホームホスピスケアの実態とその効果を検証する。

調査課題

下記の視点でホームホスピスの効果・有用性を実証する。

1. ホームホスピス利用における満足度・本人らしい生活の実現度合い
2. ご家族さま・ご遺族さま視点で感じる、住人の方の入居前後の身体的および精神的な変化
3. 住人の方が受けて喜ばれている／いたと思うホームホスピスケア

対象者条件

【対象者】

- 現在ホームホスピスに入居されている住人のご家族さま
- 過去にホームホスピスに入居していた住人のご家族・遺族さま

※住人ご本人さまは、ご体調がすぐれない場合や、身体・認知機能が低下している方がいることを鑑み、調査の対象とはしていない

【データクリーニング】

- 以下の設問で回答矛盾がある場合は非該当処理を実施
 - 問20：「入居前に状態の悪化が懸念されていましたが？」→「入居前よりも悪化することが懸念されていなかった」を回答した人は、「入居中最もお体の状態が良かった時はどのような状態でしたか？」は非該当（本来は回答の対象外）のため、回答の記載があった場合クリーニングを実施。

調査手法

郵送調査による紙面アンケート（詳細はp.4を参照）

調査時期

2025年3月21日～2025年4月24日

※スコアは小数第2位以下を四捨五入しているため、1位までの計算とは異なる場合あり。

調査概要（現場スタッフさま向け調査）

調査背景 （共通）

- 現場レベルにおいて、ホームホスピスケアは有効であると考えられてきた一方、定量的な有用性の根拠が不足している状況。
- そこで、ホームホスピスケアの各ステークホルダー（住人のご家族さま・ご遺族さま、現場スタッフさま）を対象に、ホームホスピスケアの実態とその効果を検証する。

調査課題

下記の視点でホームホスピスの効果・有用性を実証する。

1. 現場スタッフによるケアの質に対する認識
2. 現場で実践している具体的な取り組みやケアの内容
3. 現場スタッフ視点で感じる住人の入居前後の身体的な変化
4. 現場スタッフの仕事のやりがい

対象者条件

【対象者】

- 全国のホームホスピスで現在スタッフとして働いている方

【データクリーニング】

- 以下の設問で回答矛盾がある場合は非該当処理を実施
 - 問3：「前に勤めていた職場」の「その他」で同業以外を回答している人は、問10「どれだけ誇りに思うか」問11「どれくらい満足しているか」の回答は非該当（本来は回答の対象外）のため、回答の記載があった場合クリーニングを実施。

調査手法

Webアンケートおよび郵送調査による紙面アンケート

調査時期

Webアンケート：2025年3月15日～2025年4月9日
 郵送調査：2025年3月21日～2025年4月3日

※スコアは小数第2位以下を四捨五入しているため、1位までの計算とは異なる場合あり。

回収・分析にあたって

配布形式

ご家族さま・ご遺族さま向け調査



紙面アンケートのみ

運営年数	【配布目安】			回収目安数・計
	ご送付数・計	現住人のご家族さま	ご遺族さま	
1年未満	4	4	0	2
1-3年未満	6	4	2	3
3-5年未満	8	4	4	4
5-10年未満	10	4	6	5
10年以上	12	4	8	6

各ホームホスピスの運営年数に基づき、上記の紙面アンケートを配布
ご遺族さまへは、ホームホスピス経由でアンケートを郵送した

計450

回収数

207

最大有効回答数

207

有効回答数

※紙面アンケートでの実施のため、有効回答であっても一部の設問や項目において、回答が有効ではない場合がある。そのため、設問・項目ごとに有効回答数が異なる。

現場スタッフさま向け調査



オンラインアンケート、紙面アンケートを組み合わせで実施

運営年数に関係なく、一律で各3名以上のスタッフさまの回答を依頼。
オンラインアンケートでの回答が難しい方を考慮し、
紙面アンケートを各3部配布し、どちらでも回答可能とした

紙面144+オンライン

回収数

紙面49+オンライン142

最大有効回答数

191

※一部紙面アンケートでの回答が含まれるため、有効回答であっても一部の設問や項目において、回答が有効ではない場合がある。そのため、設問・項目ごとに有効回答数が異なる。

調査結果サマリ

サマリ①ホームホスピスケアの効果

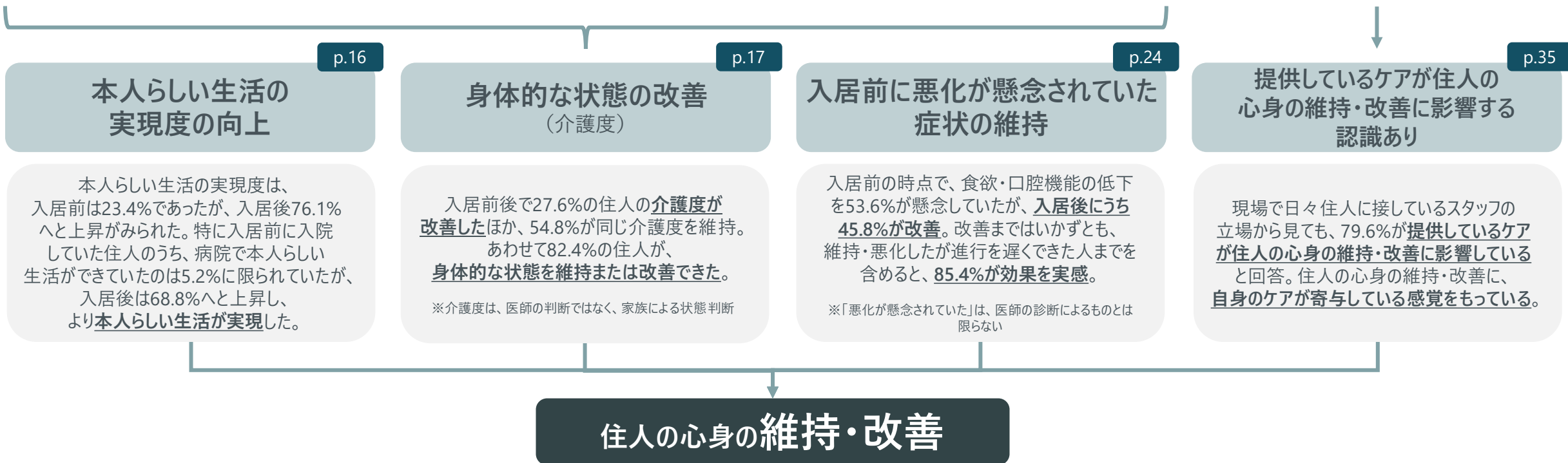
- ホームホスピスの入居前後で住人の方をよく観察しておられたご家族さま・ご遺族さまによると、ホームホスピスの入居前後で住人の心身における維持・改善がみられた。また、現場スタッフさまの視点でも、日ごろ提供しているケアが住人の心身の維持・改善に影響している実感がもたれており、こうした心身の維持・改善がホームホスピスケアの効果であると考えられる。



ご家族・ご遺族さまから見て

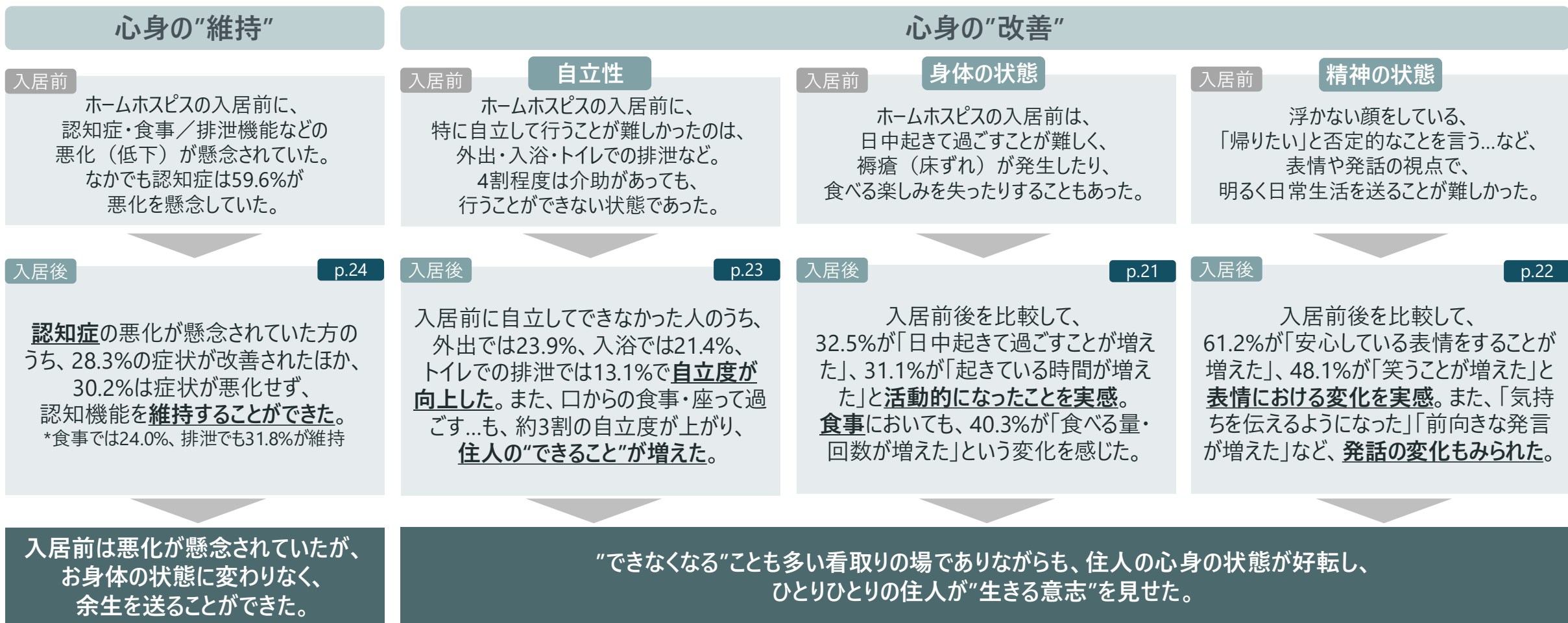


現場スタッフさまから見て



サマリ②具体的にどのような心身の維持・改善がみられたのか？

- 住人の心身の“維持”がみられたケースでは、入居前に認知症などの悪化が懸念されていたが、入居後は懸念されていた通りには悪化せず、認知機能を低下させることなく過ごすことができた住人が散見された。心身の“改善”においては、ホームホスピスで看取られていく（＝身体機能が衰えていく）住人も多いなか、食事・排泄・起きて過ごすこと...などにおいて、むしろ状態が好転するケースが確認された。いずれのケースも、ホームホスピスに入居したことで得られた結果の一つであると考えられる。



※「悪化が懸念されていた」は、医師の診断によるものとは限らない

サマリ③なぜホームホスピスケアは住人の心身の維持・改善につながっているか？

- ご家族さま・ご遺族さまのうち、ホームホスピス入居後に特に幸福を感じていた方の視点で、住人の方が受けて喜んでいただろうと思うケアを、また現場スタッフさまのうち、自身が提供しているケアが特に住人の心身の維持・改善に影響していると考えている方の視点で、普段提供しているケアを突き合わせて分析した。このような効果を実感している人には3つの共通点（住人の意思を尊重・できるだけ起きた状態で過ごす・楽しい時間を過ごす）がみられた。これら3点がホームホスピスケアの効果である住人の心身の維持・改善に特に寄与していると考えられる。

※入居後の幸福度が「幸せだったと思う」と答えた方が、住人が受けて喜んでいただろうと思うケア

p.27



ご家族・ご遺族さまから見て

住人の意思を尊重すること
（望む形で排泄する、楽しんで食べられる献立を用意してもらう...など）

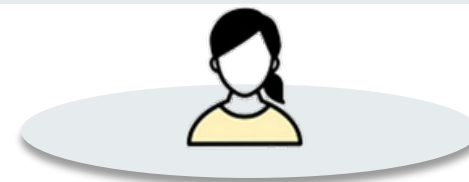
できるだけ起きた状態で過ごすこと
（住人の好きな時間に寝起きする、服を着替えて過ごす...など）

楽しい時間を過ごすこと
（おしゃれを楽しむ、食べられなくても好きな食品を口に含んで楽しむ...など）



※自身が提供しているケアが住人の心身の維持・改善に「影響していると思う」と答えた方が、提供しているケア

p.36



現場スタッフさまから見て

住人の意思を尊重すること
（望む形で排泄してもらう、楽しんで食べられる献立を用意する、住人のやりたい手遊びなどを尊重する...など）

できるだけ起きた状態で過ごすこと
（住人の好きな時間に寝起きする、他の住人がいる居間で過ごす...など）

楽しい時間を過ごすこと
（おしゃれをしてもらう、食べられなくても好きなものを口に含んでもらう...など）

**住人の心身の
維持・改善**

住人のご家族さま・ご遺族さま向け調査

【ご家族さま・ご遺族さま】 回答者／住人の方のプロフィール

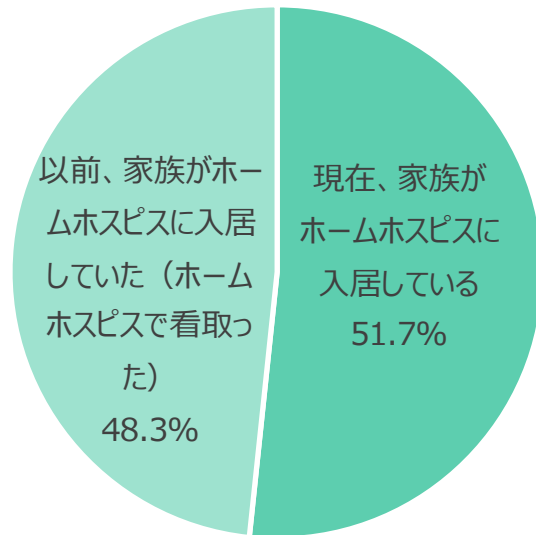
回答者プロフィール①（続柄・住まい）

- 今回ご協力いただいたご家族・ご遺族の割合はおよそ半々。
- 回答者から見た住人の続柄は、「母親」が半数を占め、父親、配偶者と続く。
- 回答者の住まいは、ホームホスピスの施設数が多い近畿地方・九州・沖縄地方が3割弱を占める。

ご家族・ご遺族の区分

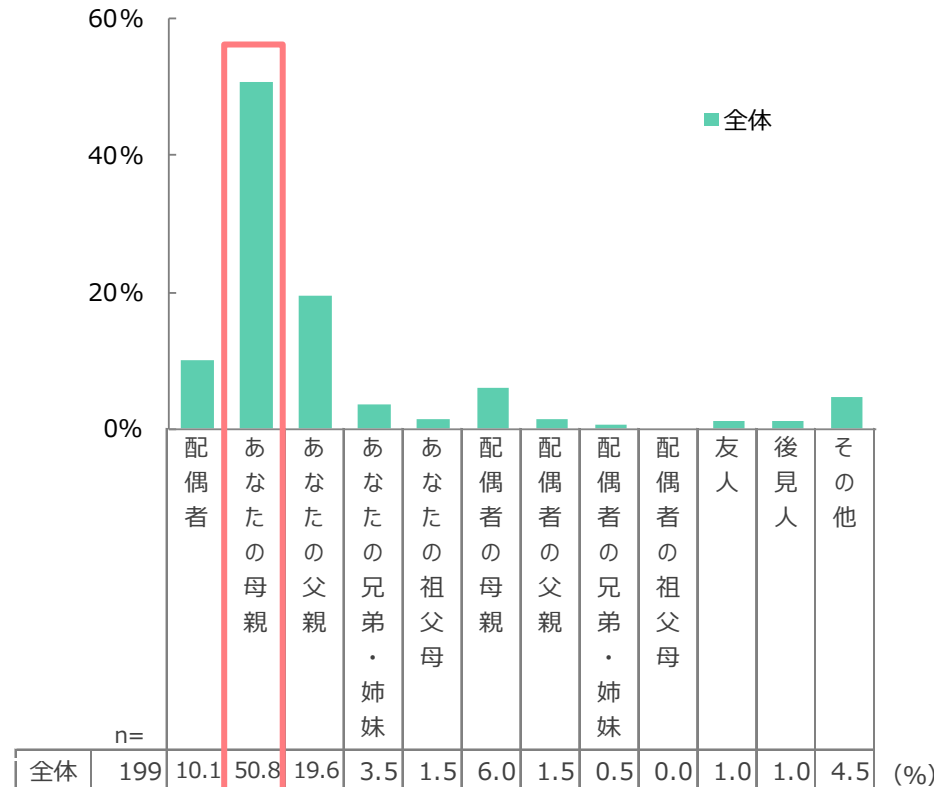
Q1：あなたご自身は下記のどちらに該当しますか。（SA）

n=180



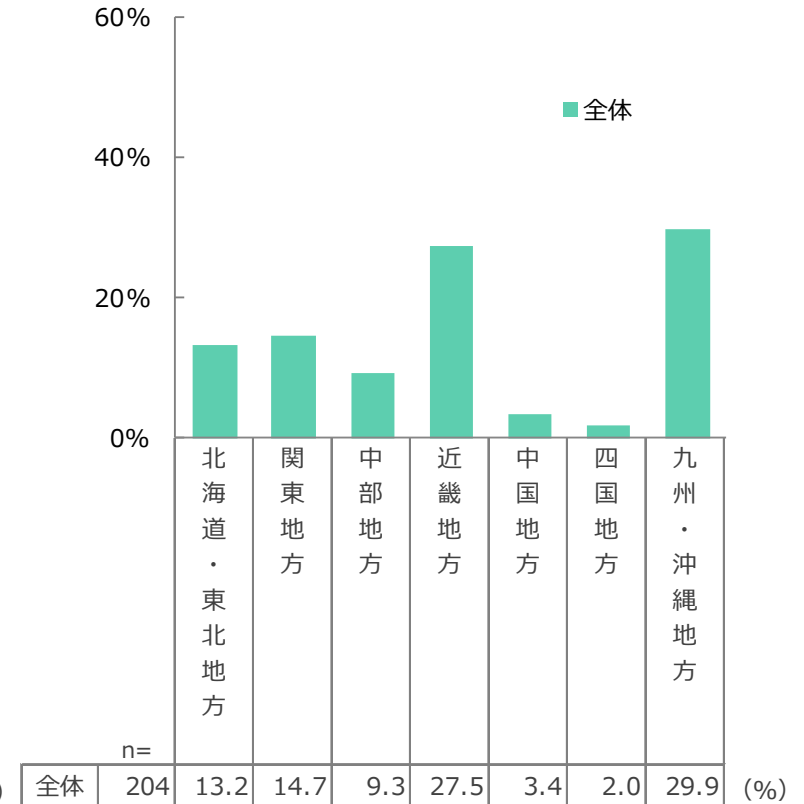
回答者から見た住人の続柄

Q24：あなたと住人の続柄をお答えください。（SA）



回答者の住まい

Q25：あなたがお住まいの都道府県はどちらですか。（SA）

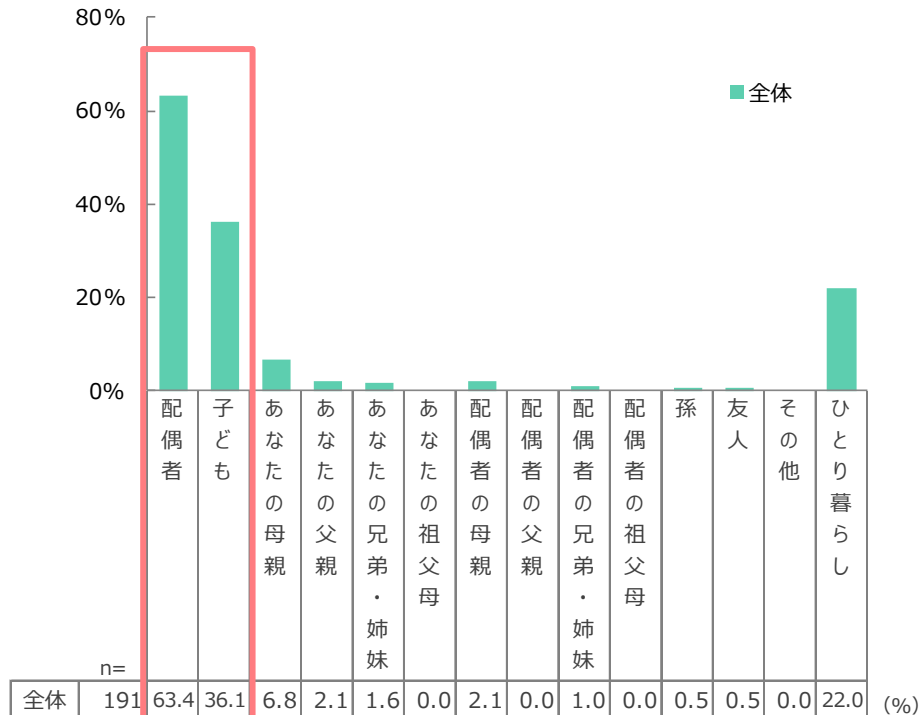


回答者プロフィール②（同居家族・ホームホスピス入居に関する費用の支払い）

- 回答者の同居家族は「配偶者」が6割強で最も高く、次いで「子ども」「ひとり暮らし」が続く。
- 回答者の世帯年収は「200万円～400万円未満」が3割弱で最多。
- ホームホスピス利用費の財源は、8割弱が住人本人の資金。今回の回答者は家族などからの補助を受けている人は少ない。

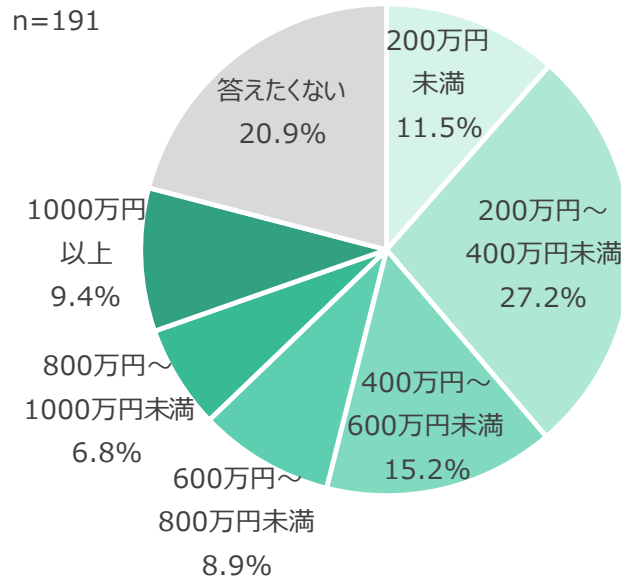
回答者の同居家族

Q26：現在、あなたと一緒に住まいの方はいらっしゃいますか。（MA）



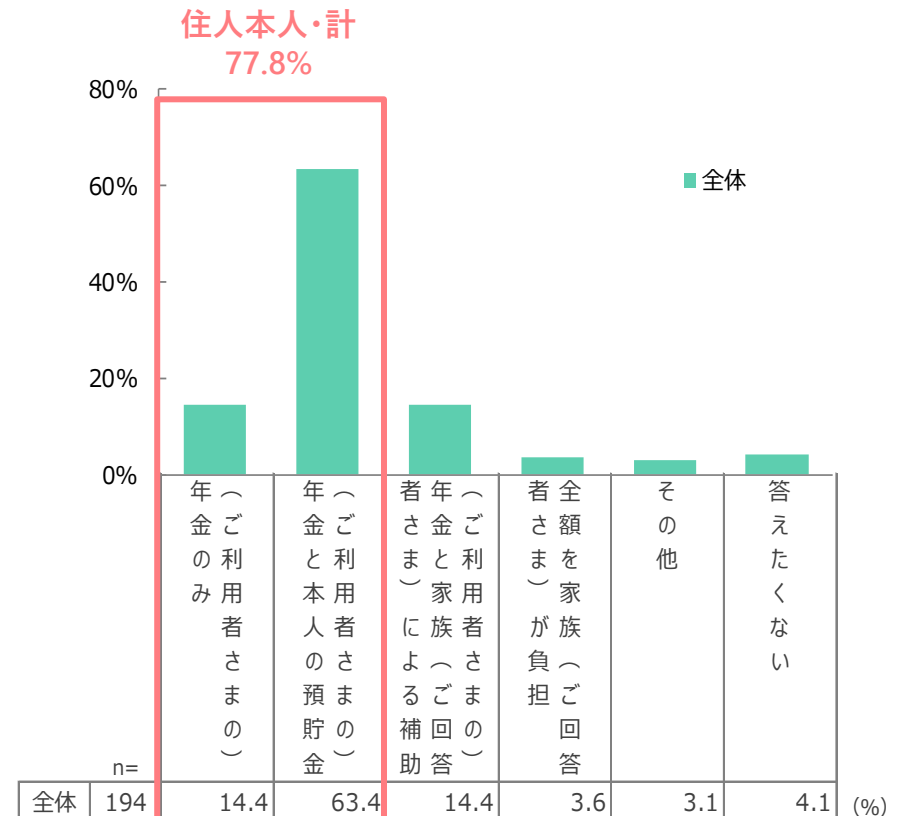
回答者の世帯年収（税込）

Q28：あなたご自身の世帯全体の年収は、おおよそいくらくらいですか。（SA）



ホームホスピス利用費の財源

Q27：ホームホスピスご利用にあたっての費用（毎月のお支払い）は、どなた（どなたの財源）からお支払いされていますか。（MA）

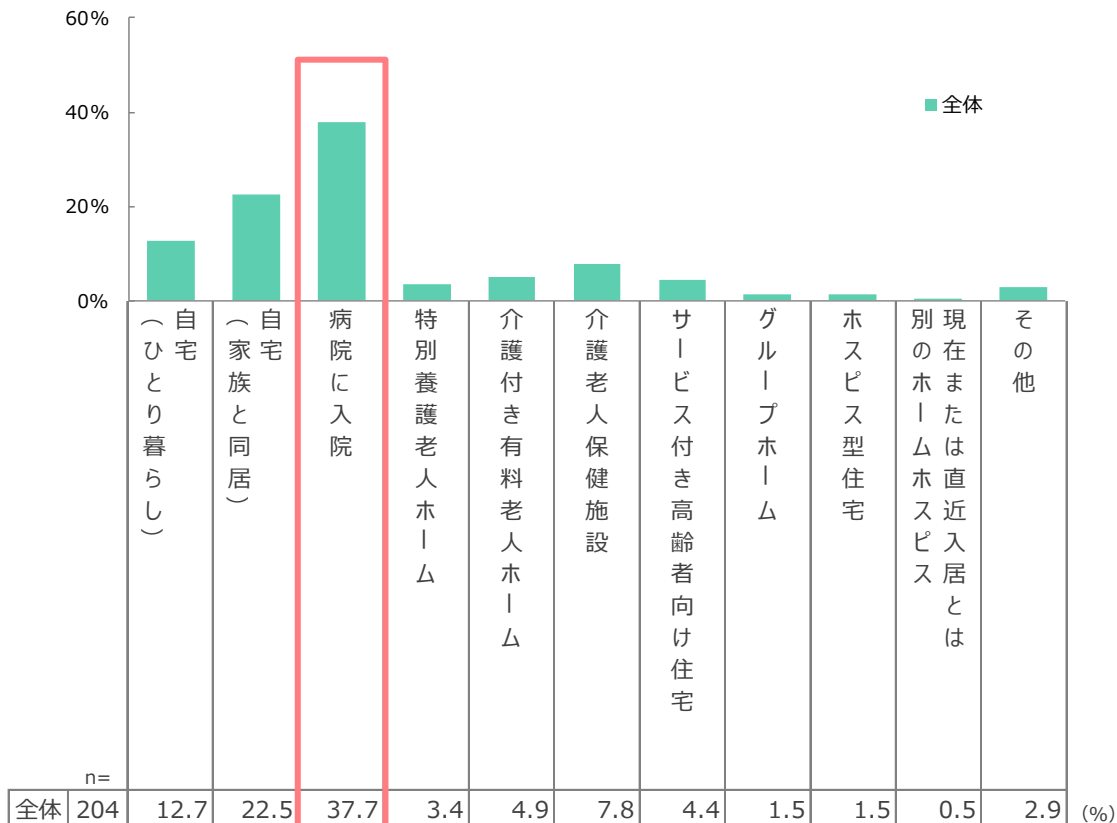


住人の方のプロフィール①（ホームホスピス入居前の環境）

- ホームホスピス入居前にいらした環境（場所）は「病院に入院」が4割弱で最多。
- 入居前の環境の不満点は、「ご利用者さまにあわせた個別対応の不足」が全体で4割強、施設別では病院で約6割と施設の特性上、やむを得ず個別対応しきれない現状も考えられる。

ホームホスピス入居前にいらした環境（場所）

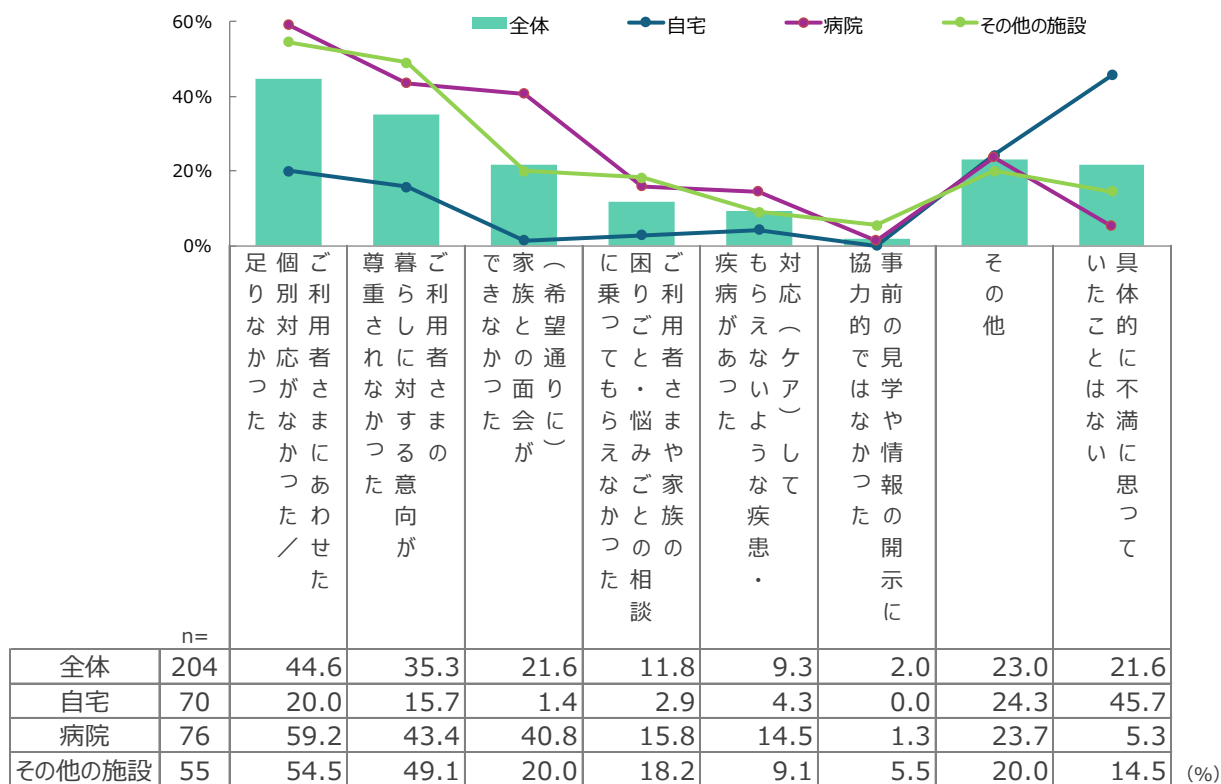
Q4：＜入居前＞ホームホスピスご利用者さまが、ホームホスピスご入居前にいらした環境（場所）はどちらですか。（SA）



入居前の環境の不満点

Q6：＜入居前＞ホームホスピスご入居前にいらした環境（場所）に、住人の方は、どのような不満があったと思いますか。（MA）

※全体スコアで降順ソート



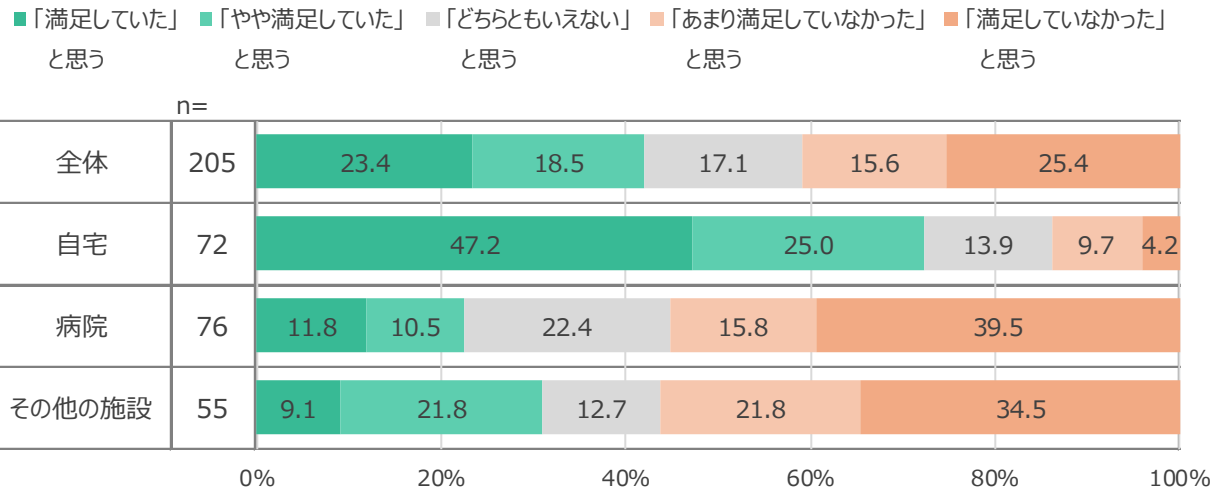
住人の方のプロフィール②（ホームホスピス入居前の環境）

- 入居前の環境の満足度は全体で約4割と半数に満たない。
- 入居前の環境での本人らしい生活の実現度は約2割と少ない。また、約6割が本人らしく生活できていなかったと思うと回答。

入居前の環境の満足度

Q5：＜入居前＞ホームホスピスご入居前の環境（場所）に、住人の方は、どのくらい満足していたと思いますか。（SA）

※表側はご入居前にいらした場所



「満足していた」
と思う・計

42.0%

72.2%

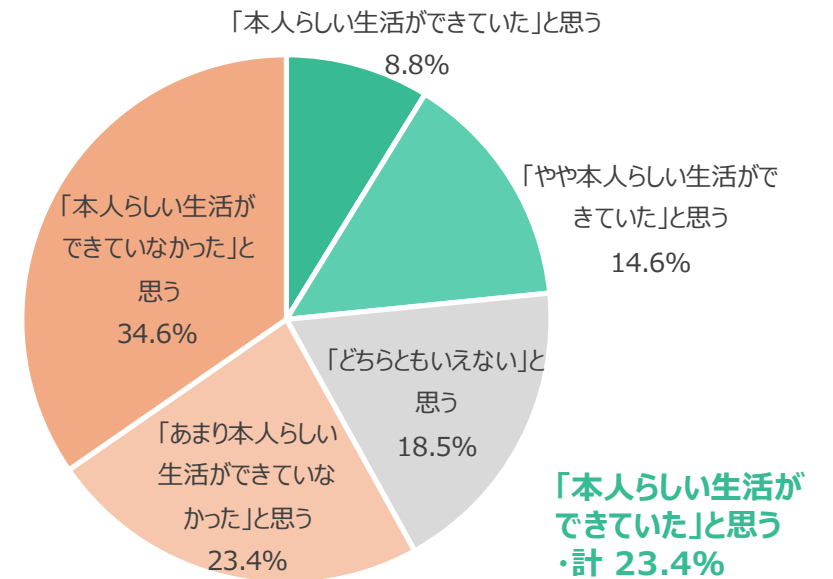
22.4%

30.9%

入居前の環境の本人らしい生活の実現度

Q9：あなたから見て、ホームホスピスご利用者さまは、ご入居前の環境（場所）にいらしたとき、どの程度で本人らしい生活ができていたと思いますか。（SA）

n=205



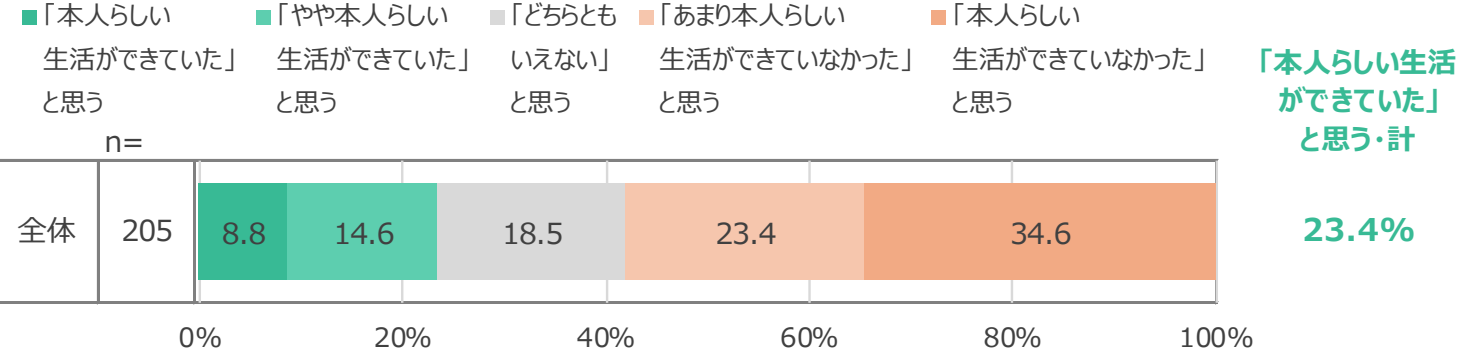
【ご家族さま・ご遺族さま】ホームホスピス入居後の概要

ホームホスピス入居前後での変化①（本人らしい生活の実現度）

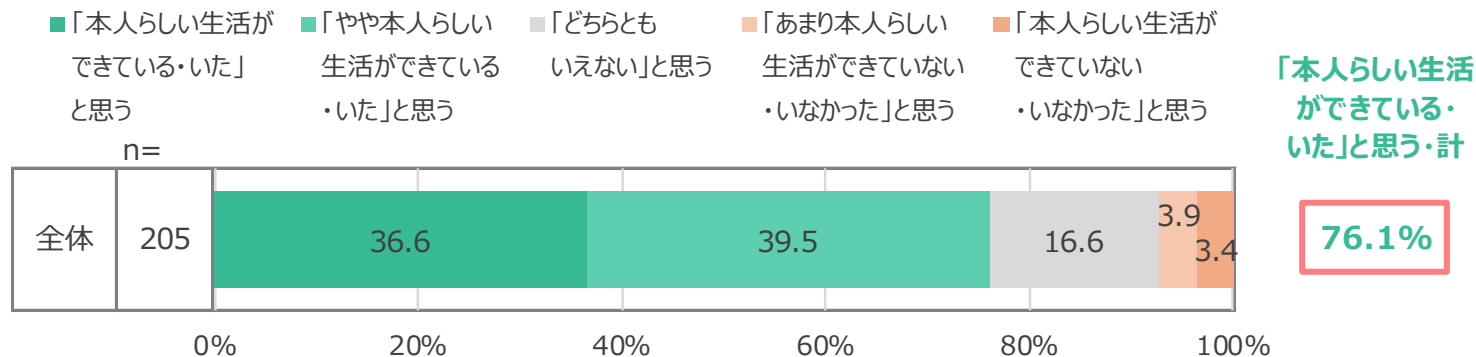
- 本人らしい生活の実現度は入居前では約2割に留まるが、入居後は7割台半ばと、大幅に上昇した。
- また、入居前に入院していて本人らしい生活を実現できていた人は5.2%に限られていたが、入居後に68.8%まで上昇し、本人らしい生活を取り戻した人が目立つ。

本人らしい生活の実現度

Q9：＜入居前＞あなたから見て、ホームホスピスご利用者さまは、ご入居前の環境（場所）にいらしたとき、どの程度ご本人らしい生活ができていたと思いますか。（SA）



Q10：＜入居後＞あなたから見て、ホームホスピス入居後に、住人の方はどの程度ご本人らしい生活ができている・できていたと思いますか。（SA）



なお、入居前に入院していた方（n=77）の本人らしい生活の実現度は、入居前が5.2%だったのに対し、入居後は68.8%にまで向上した。

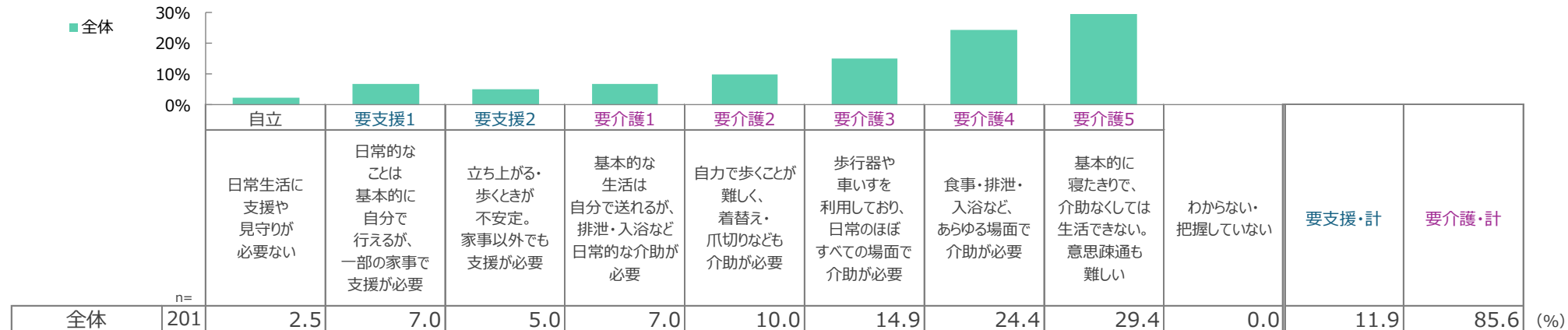
※いずれも「本人らしい生活ができている・いた」と思う・計のスコア

ホームホスピス入居前後での変化②（お身体の状態）

- 入居前後での介護度の変化をみると、「維持」が最も多く54.8%。
- 続いて「改善」が27.6%と、維持とあわせて約8割は介護度が悪化せず、身体機能の維持・改善ができています。

お身体の状態（介護度）

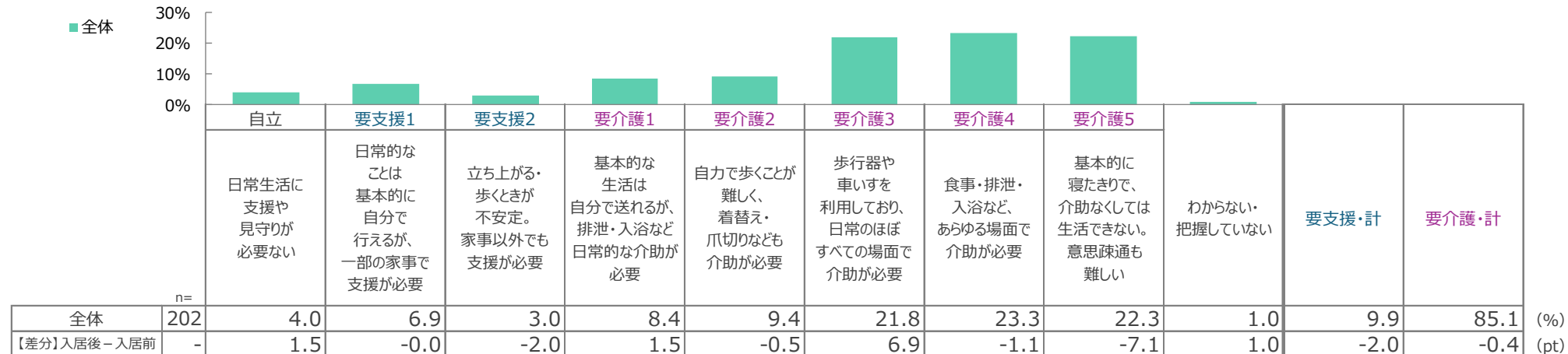
Q7：＜入居前＞ホームホスピス入居前の住人の方のお身体の状態として、あてはまるものをお選びください。（SA）



※回答しやすいよう、各介護度の定義を書き下した表現で聴取
※介護度は、医師の判断ではなく、家族による状態判断

介護度改善...27.6%
介護度維持...54.8%
介護度悪化...15.6%
改善または維持・計...82.4%

Q18：＜入居後＞ホームホスピス入居後、住人の方が最もお身体の状態がよかったときのことについて、最もあてはまるものをお選びください。（SA）



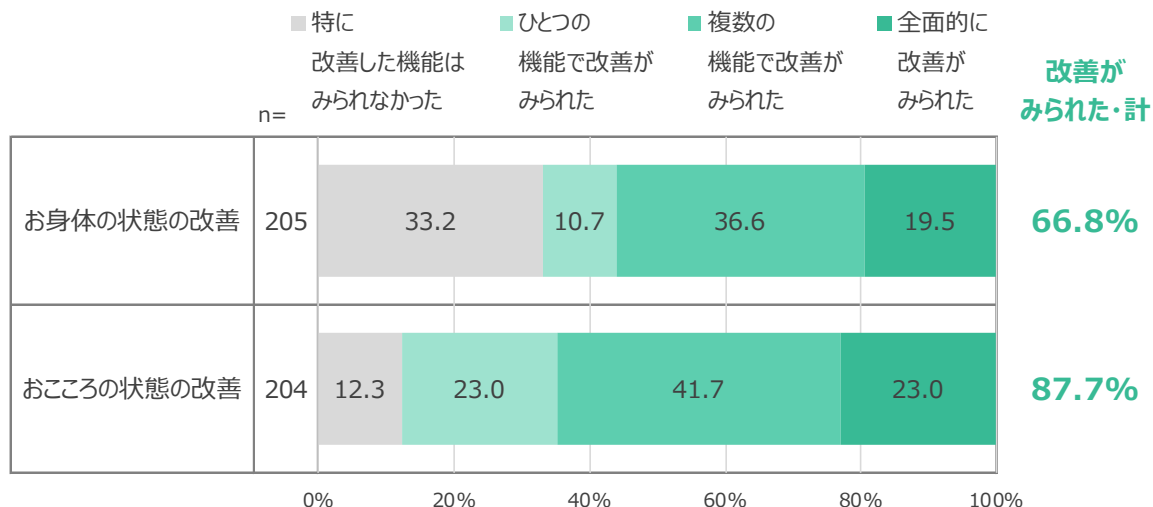
※入居前後で介護度の段階がひとつでも改善・悪化（変わらない場合は維持）した人の割合
※「わからない・把握していない」、回答矛盾を除いたn=199で 集計

ホームホスピス入居前後での変化③（心身の状態の変化）

- 入居前後での改善状況は、お身体で約7割、おこころ（精神）で約9割に改善がみられたと回答。特に、おこころの改善率が高い。
- 入居前後での悪化状況を聴取しても、お身体・おこころともに、特に悪化した機能はみられなかった（＝悪化することなく、身体・精神の状態を維持できた）と約7割が回答。

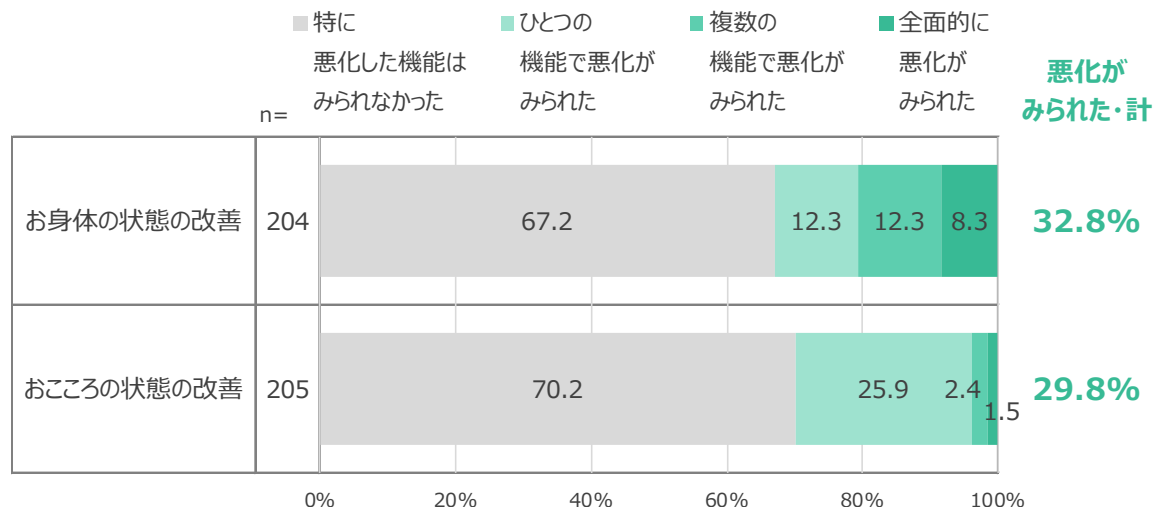
入居前と比べての入居後の心身の改善状況

Q13：＜入居後＞あなたから見て、ホームホスピスご利用者さまのお体・おこころの状態は、入居後に下記のような改善が見られましたか。（SAMT）



入居前と比べての入居後の心身の悪化状況（維持ができたかどうか）

Q14：＜入居後＞あなたから見て、ホームホスピスご利用者さまのお体・おこころの状態は、入居後に下記のような改善が見られましたか。（SAMT）

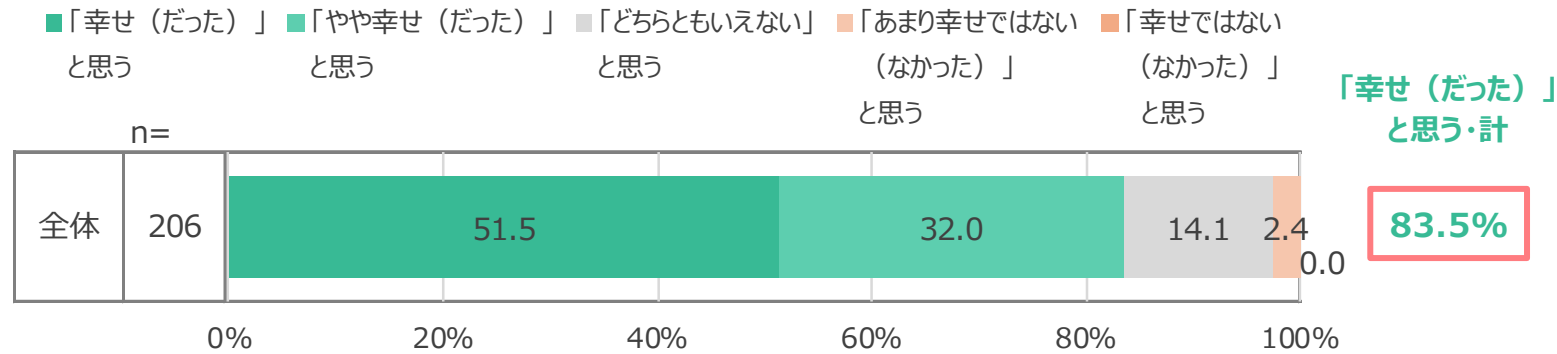


ホームホスピス入居後の概況（入居後の幸福度、ご家族さま・ご遺族さまの満足度）

- 本人らしい生活を実現できただけでなく、入居後は83.5%が幸せであると感じた。
- また、住人ご本人だけでなく、住人を見守ってきたご家族さま・ご遺族さまの95.1%が入居後に満足している。

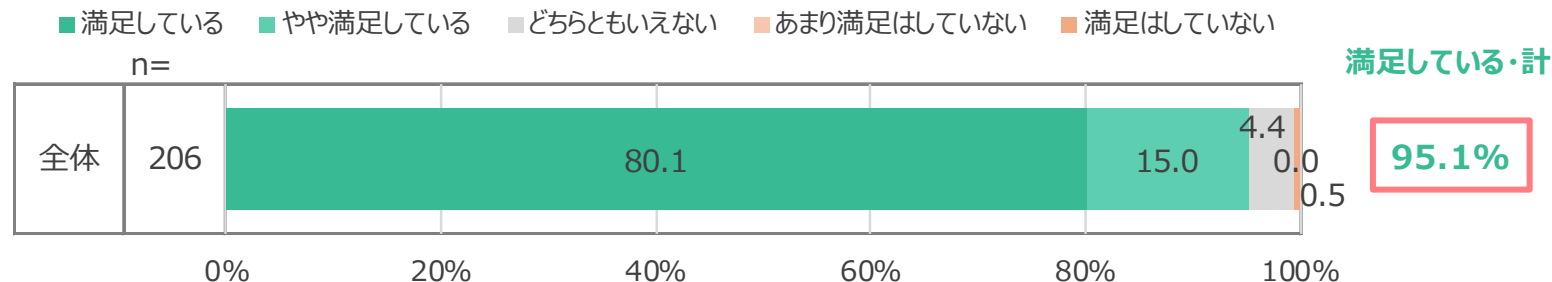
幸福度

Q11：＜入居後＞住人の方は、ホームホスピスでの生活にどのくらい幸せを感じている・いたと思いますか。（SA）



満足度

Q12：＜入居後＞ご利用者さまがホームホスピスで生活されている／いたことに、あなたご本人は、どのくらい満足していますか。（SA）



【ご家族さま・ご遺族さま】ホームホスピス入居後の変化の詳細

ホームホスピス入居後の変化①（お身体の状態）

- 入居後の身体的な変化としては、全体で「食事量・回数の増加」が4割で最多。また、日中起きて、座った状態で過ごすことができるようになったケースもみられる。
- 家族から見た住人の幸福度TOP1（幸せだったと思う）層では、全体的にスコアが高いが、特に「発話の増加・会話ができるようになった」が全体と比べて約12pt高く、幸福度に寄与していると考えられる。

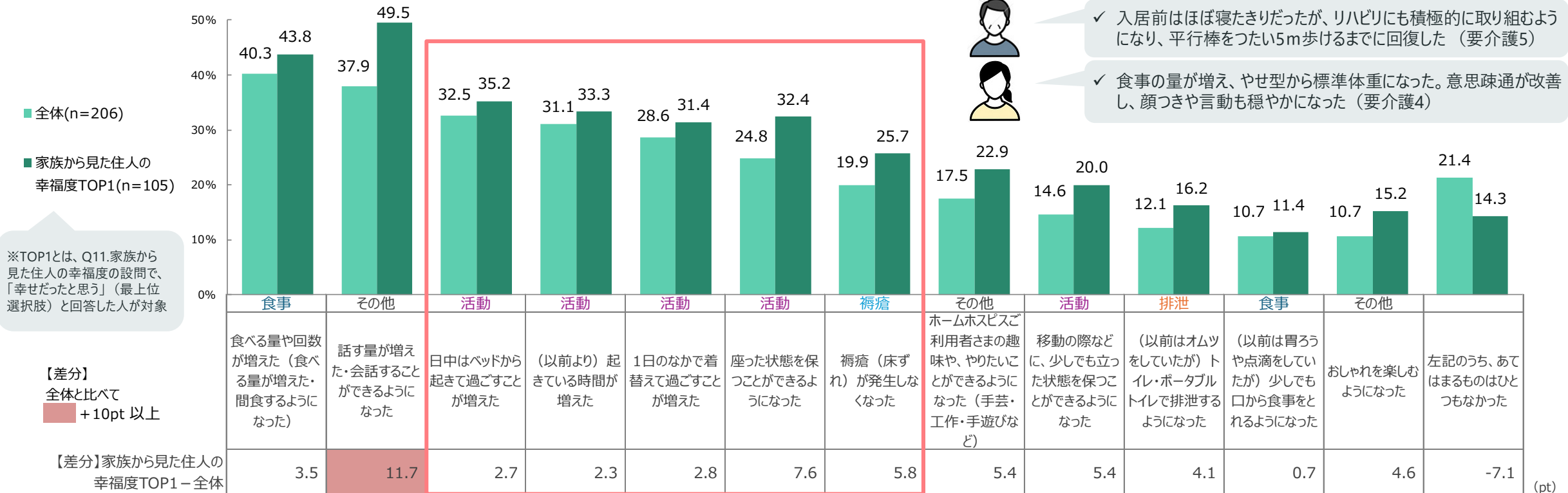
入居後の具体的な身体の変化

Q16：＜入居後＞あなたから見て、ご入居前と比べ、住人のお身体にはどのような変化がありましたか。（MA）

＜別途聴取した自由回答の一例＞

※（ ）内は入居前の介護度

※全体スコアで降順ソート



ホームホスピス入居後の変化②（おこころの状態）

- 入居後の変化は、全体と家族から見た住人の幸福度TOP1（幸せだったと思う）層どちらも「安心している表情をすることが増えた」が約6割で最多。続いて「笑うことが増えた」は、幸せだったと思う層のほうが全体と比べて約10pt高く、より強く変化を感じている。
- 前ページでの身体の変化だけでなく、精神的にも具体的な変化がみられた。

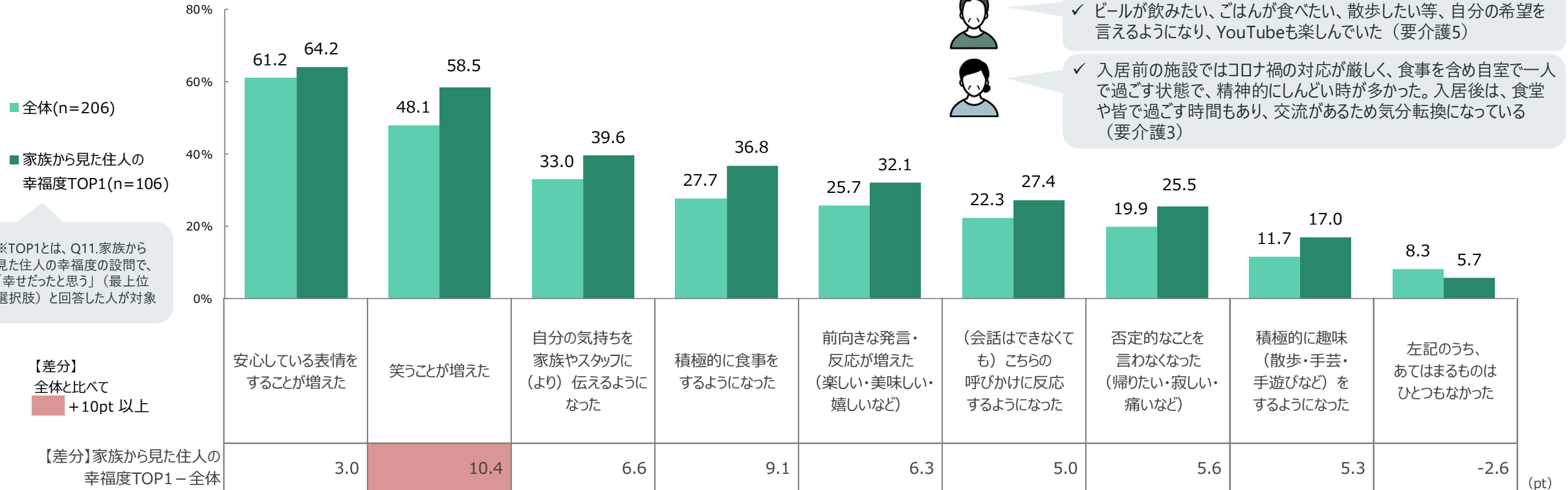
入居後の具体的な精神の変化

Q17：＜入居後＞あなたから見て、ご入居前と比べ、住人の方のところにどのような変化がありましたか。（MA）

＜別途聴取した自由回答の一例＞

※（）内は入居前の介護度

※全体スコアで降順ソート



✓ 入居数週間後には発語が増し、笑みを取り戻した。心に生きるエネルギーを生み出してくれていると感じる（要介護4）



✓ ビールが飲みたい、ごはんが食べたい、散歩したい等、自分の希望を言えるようになり、YouTubeも楽しんでた（要介護5）



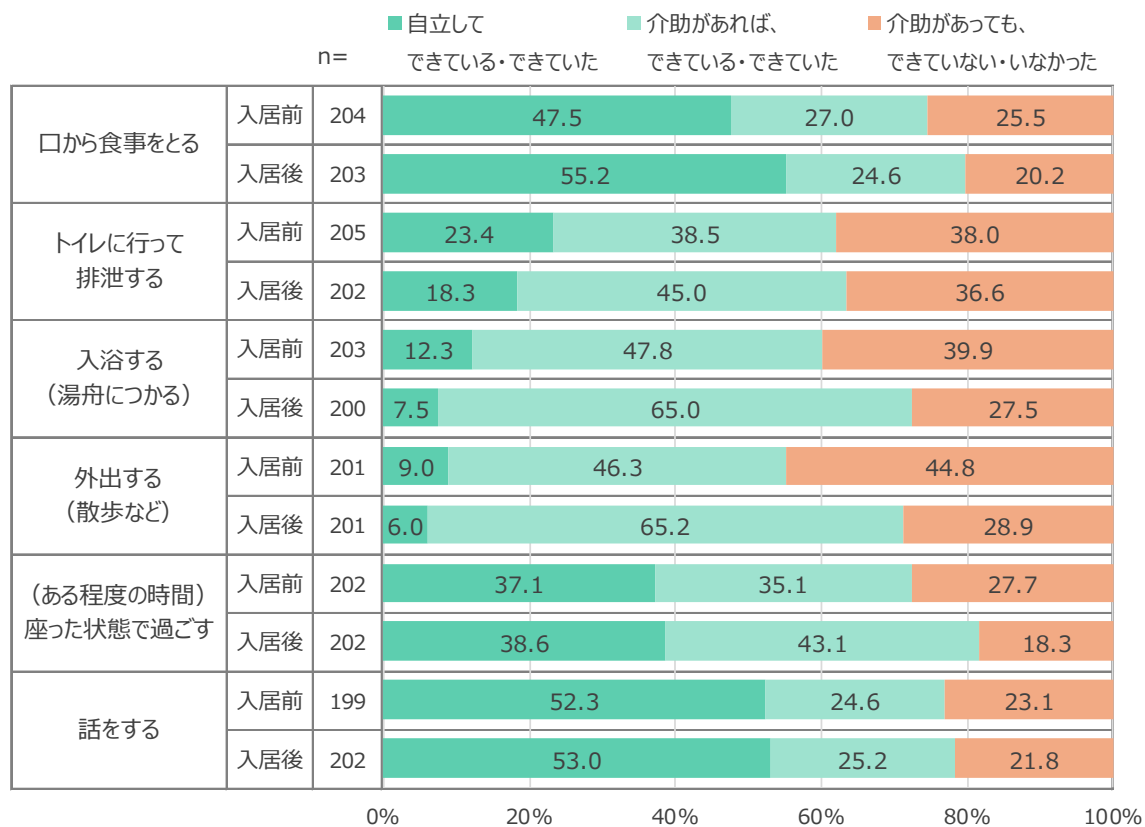
✓ 入居前の施設ではコロナ禍の対応が厳しく、食事を含め自室で一人で過ごす状態で、精神的にしんどい時が多かった。入居後は、食堂や皆で過ごす時間もあり、交流があるため気分転換になっている（要介護3）

ホームホスピス入居後の変化③（ご自身でできること・できないこと）

- 入居前から、「口から食事をする」「話をする」は約半数が自立してできていた。入居後も、各項目で約6～8割がその機能を維持できている。
- 入居前に自立してできなかった人の入居後の状態としては、「口から食事をする」「座った状態で過ごす」で自立度が上がった人が3割以上と、具体的な機能の改善もみられた。

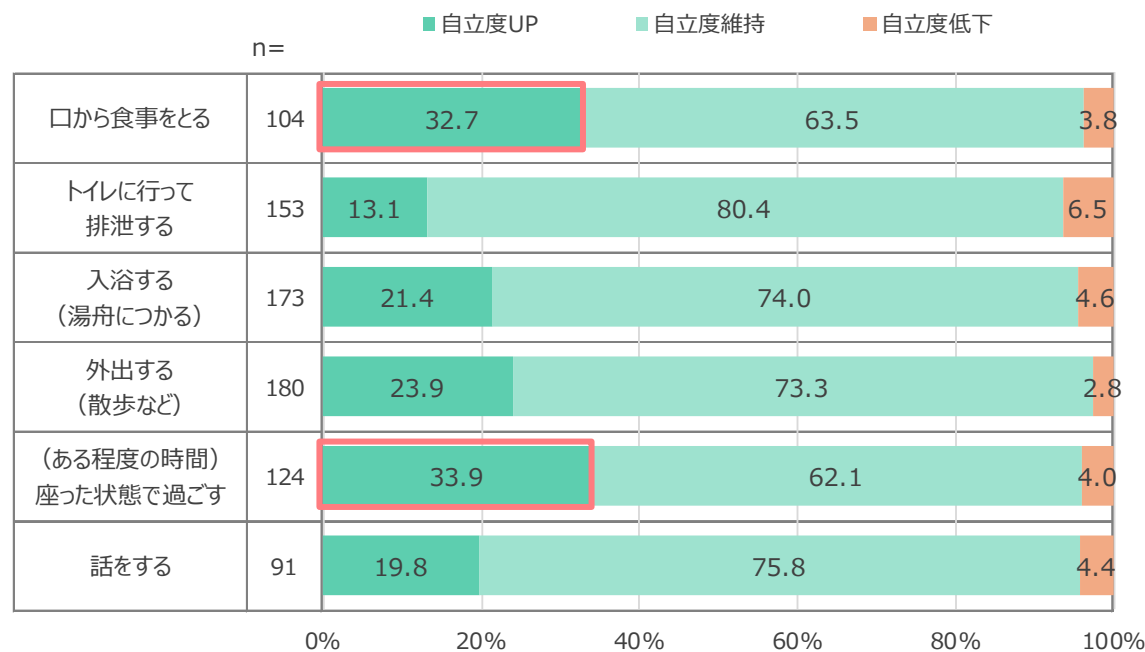
入居前後における自立してできること・介助が必要なこと

Q8：＜入居前＞続けて、ホームホスピスにご入居前のお身体の状態についてうかがいます。あなたから見て、ホームホスピスご利用者さまは、ご入居前の環境（場所）にいらしたとき、下記のようなことをご自身でできていましたか。（SAMT）
Q19：＜入居後＞続けて、ホームホスピスにご入居後のお身体の状態についてうかがいます。あなたから見て、ホームホスピスご利用者さまは、ホームホスピスに入居された後、下記のようなことをご自身でできている・できていましたか。（SAMT）



入居前に自立してできなかった人の入居後の状態

※各動作について、入居前に要介助・介助があってもできなかった人ベース
※自立度UP...介助があればできる→【自立してできる】・【介助があってもできない】→【介助があればできる】・【介助があってもできない】
→【自立してできる】のいずれかの変化を指す（自立度低下はこれらの逆のパターンを指す）
※自立度維持...入居前後の状態が変わらないことを指す

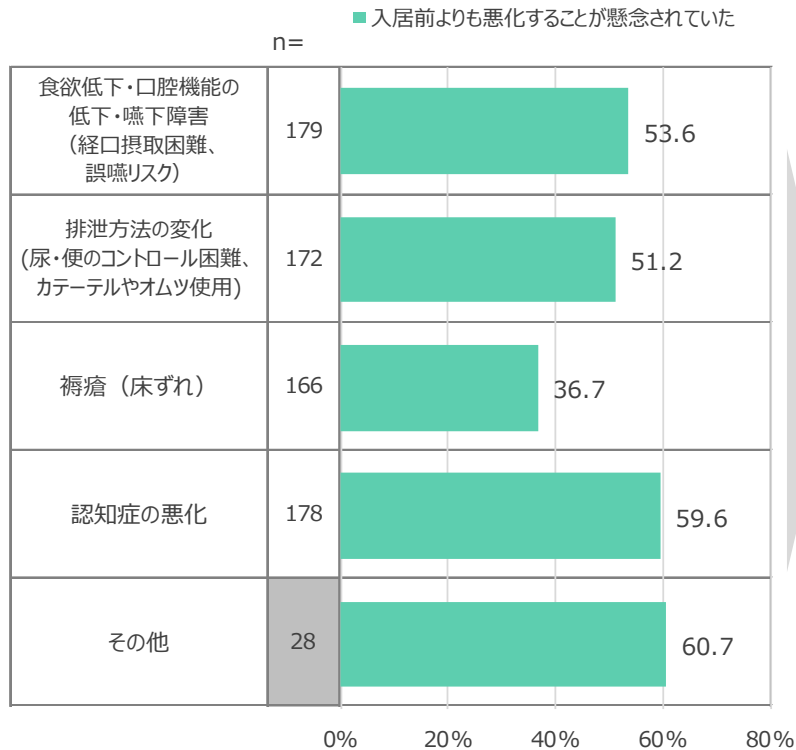


ホームホスピス入居後の変化④（状態の悪化が懸念されたこととその経過）

- 入居前に悪化が懸念されていたことは、褥瘡（床ずれ）が約4割、それ以外は5割～6割となっている。
- 懸念していた人のうち、入居後、約3割～4割が状態が改善したと回答。維持・進行遅延も含めると、各項目で8割～9割程度の人 が該当しており、ホームホスピス入居によって、状態を維持・改善させることができた。

入居前に状態の悪化が懸念されていたこと

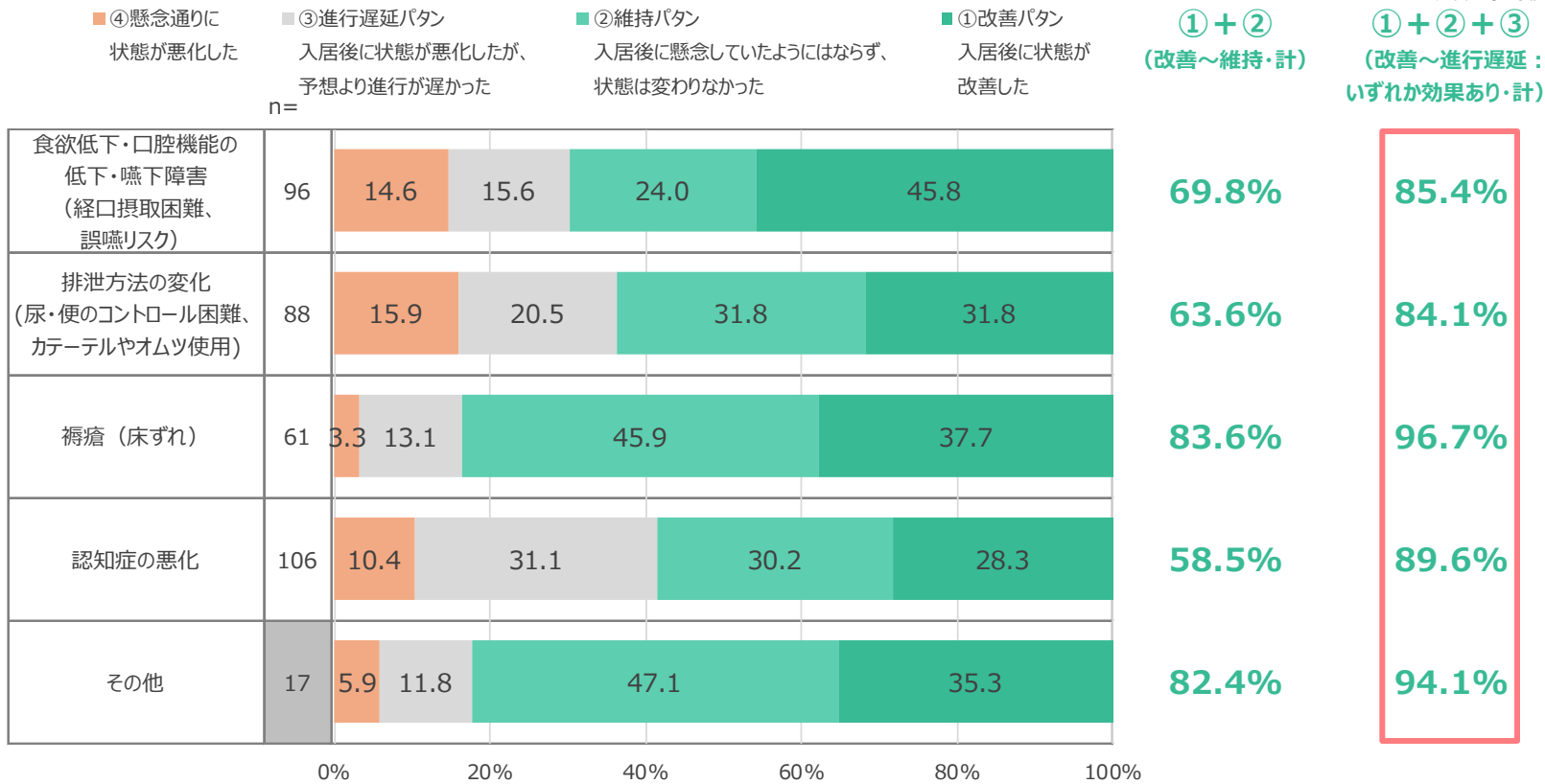
Q20-1：＜入居前＞ホームホスピスに入居される前に状態の悪化が懸念されていたことはありますか。（SA）
※n<30の項目は参考値



入居前に悪化が懸念されていたことの入居後の経過

Q20-2：＜入居後＞また、懸念されていたことは、ホームホスピスに入居後どのような状態になりましたか。（SA）
※各症状について「悪化が懸念されていた」人ベース

※「悪化が懸念されていた」は、医師の診断によるものとは限らない
※n<30の項目は参考値



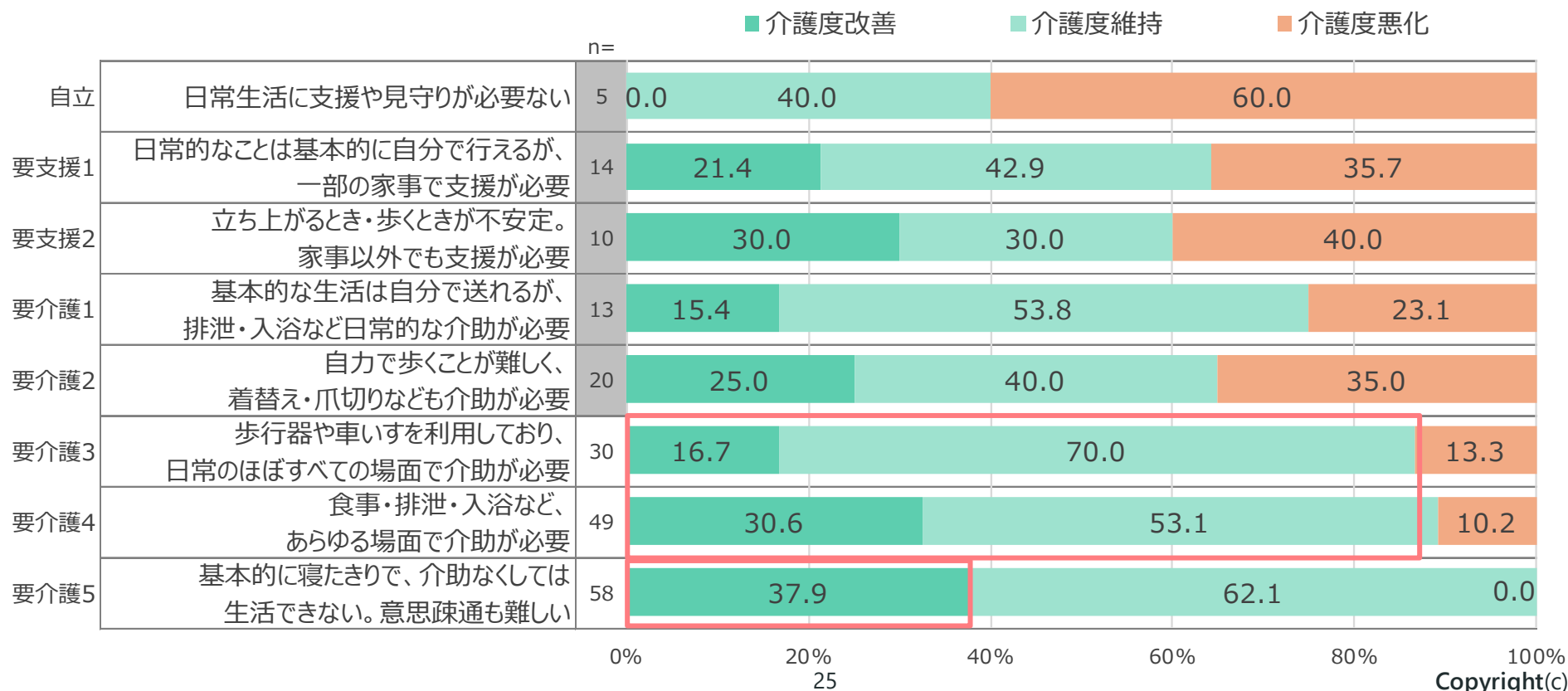
ホームホスピスの入居前の介護度と入居後の介護度の変化

■ 入居前の要介護が3～4だった住人の8～9割が入居後に維持・改善と回答し、要介護5では約4割が改善と回答。

入居前の介護度～入居後の介護度変化

Q7：＜入居前＞あなたから見て、ホームホスピスご利用者さまは、ご入居前の環境（場所）にいらしたとき、どのような状態にみえましたか。（SA）
Q18：＜入居後＞ホームホスピス入居後、住人の方が最もお身体の状態がよかったときのことについて、最もあてはまるものをお選びください。（SA）

※入居前後で介護度の段階がひとつでも改善・悪化（変わらない場合は維持）した人の割合
※「わからない・把握していない」、回答矛盾を除いたn=199で集計
※n<30の項目は参考値
※介護度は、医師の判断ではなく、家族による状態判断



【ご家族さま・ご遺族さま】ホームホスピスにおけるケア

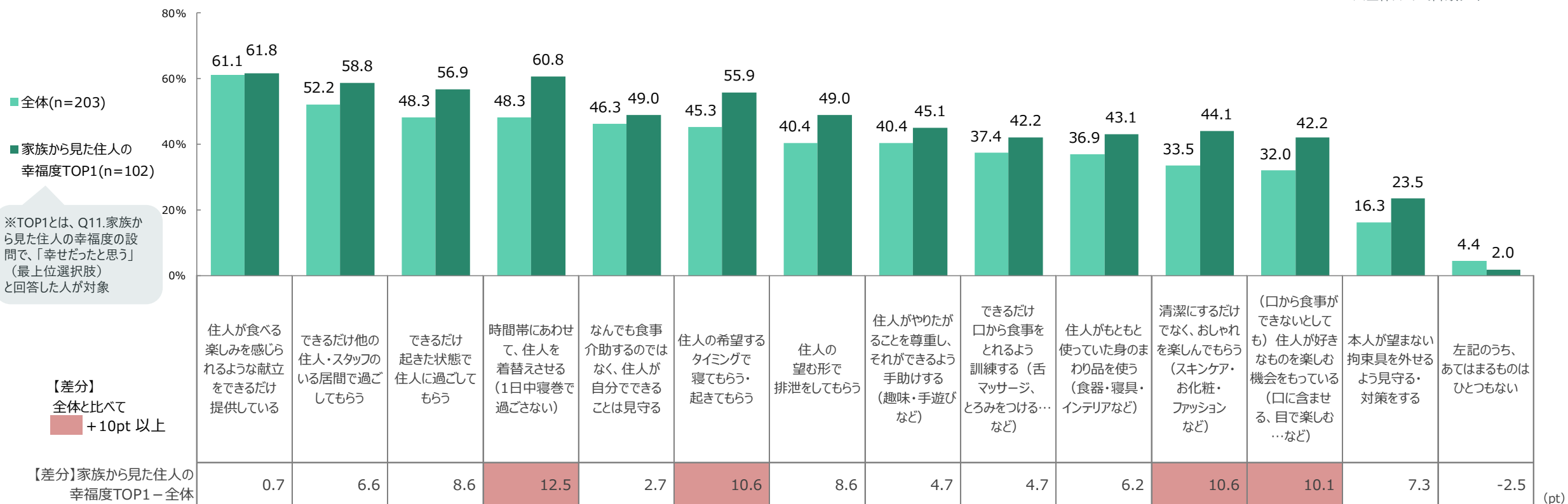
ホームホスピスにおけるケア①（住人が受けて喜んでいたと思うケア）

- 住人が喜んでいたと思うケアは、全体・家族から見た住人の幸福度TOP1（幸せだったと思う）層に共通して、「食べる楽しみを感じられる献立を提供」が約6割で最も多かった。
- 幸せだったと思う層は、「着替えさせる」「住人が希望するタイミングでの寝起き」のように、寝たきりにしないことや、「おしゃれを楽しむ」といった衣食住＋αのケアが喜ばれたと思うと回答した。

入居中に利用者が受けて喜んでいてと思う具体的なケア

Q21：＜入居後＞ご利用者さまがホームホスピス入居中に受けたケアのうち、ご利用者さまが受けて喜んでいただけたと思うもの（ケア）はどれですか。（MA）

※全体スコアで降順ソート



ホームホスピスにおけるケア②（入居の決め手）

- ホームホスピスでの生活を振り返って入居の決め手となったのは、「住人と面会できるから」「スタッフが信用できると感じたから」「住人の意向を尊重してもらえるから」が約7割。
- 入居前の環境の不満点（住人に合わせたケアがされない・意向が尊重されないなど）（p.13）で上位だった点ができるだけ払しょくされることが、入居の決め手となっている。

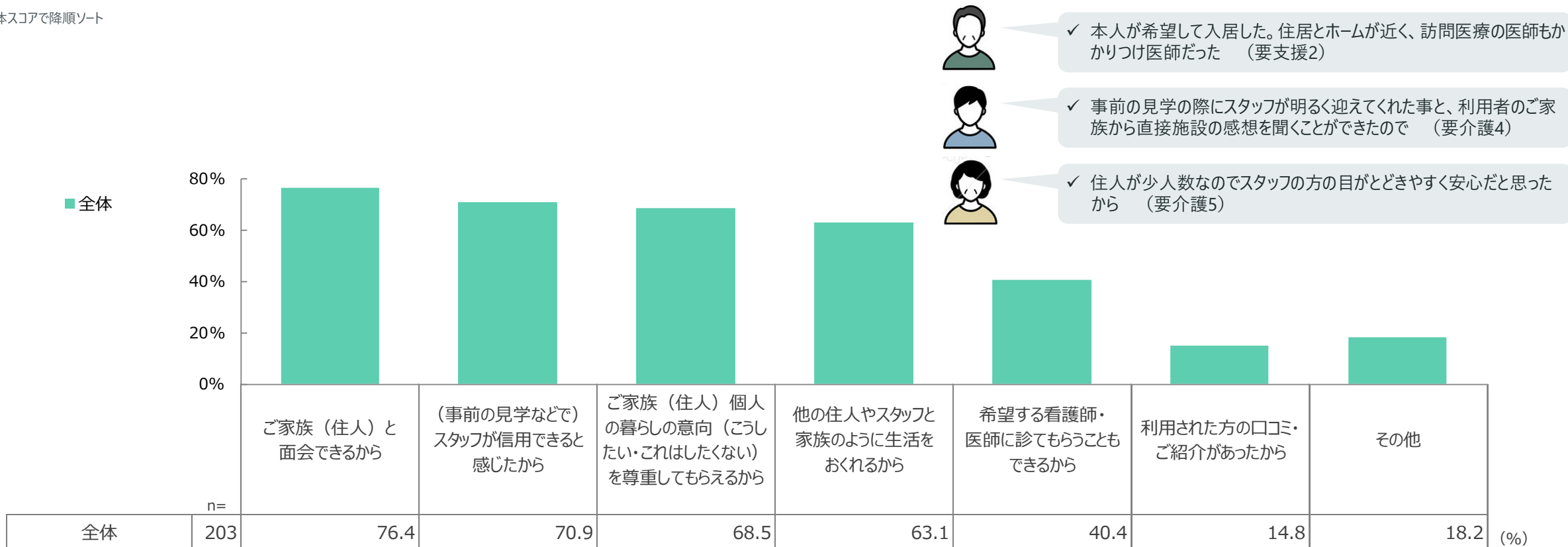
ホームホスピスでの生活を振り返って、ホームホスピス入居の決め手になったと思う点

Q22：これまでの住人のホームホスピスでの生活を振り返って、どのようなことがホームホスピスへの入居の決め手になりましたか。（MA）

< 別途聴取した自由回答の一例 >

※（）内は入居前の介護度

※全体スコアで降順ソート



【ご家族さま・ご遺族さま】 ご家族さま・ご遺族さまの変化

ご家族さま・ご遺族さまの変化

- ご家族・ご遺族の変化としては、「安心して日々の生活をおくれるようになった」が約9割で最多。
- 続いて、「住人に対して優しい気持ちで接することができるようになった」が約6割。ご家族自身に心の余裕が生まれたことが住人の方への優しい態度にもつながっていると考えられる。

回答者本人とご家族における入居後の生活の変化

Q23：＜入居後＞ホームホスピスにご入居されたことで、あなたご自身やあなたのご家族に何か変化はありましたか。（MA）

※（）内は入居前の介護度

※全体スコアで降順ソート

＜別途聴取した自由回答の一例＞



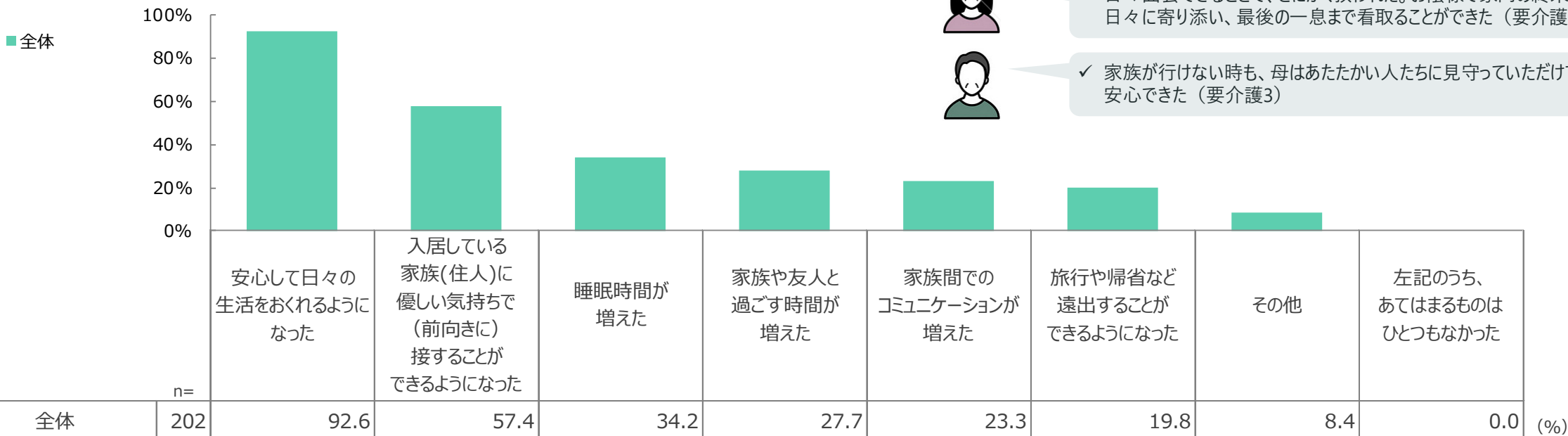
✓ 実家で介護しながら社会人としてフルタイムで仕事をしていたので、施設に入所して精神的にも肉体的にも大分楽になった。毎週末面会に必ず行って、会うのが楽しみになり、母とも話す機会が増えた（要介護4）



✓ 日々面会できることで、とにかく救われた。お陰様で家内の終末の日に寄り添い、最後の一息まで看取ることができた（要介護5）



✓ 家族が行けない時も、母はあたたかい人たちに見守っていただけてと安心できた（要介護3）



現場スタッフさま向け調査

【現場スタッフさま】回答者（スタッフ）プロフィール

回答者プロフィール（年代・勤務状況）

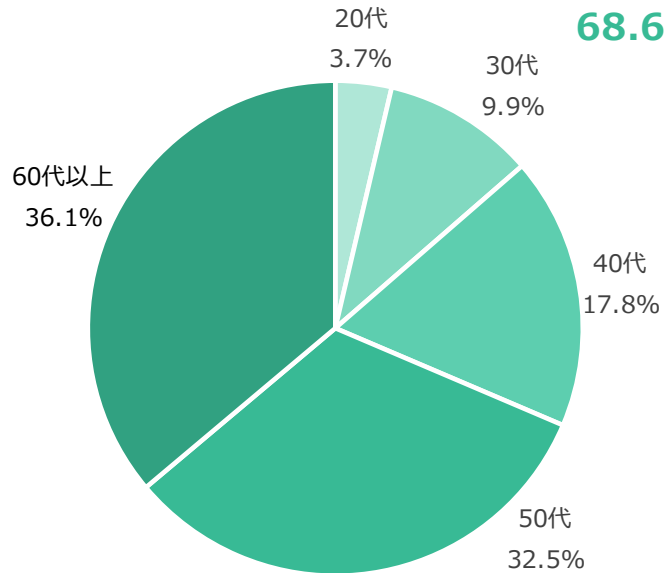
- 今回回答したスタッフの年代は60代以上が3割半ば。50代以上で約7割を占める。
- スタッフの勤続年数は平均して約5年強。5年以上勤務しているスタッフは約4割強にのぼる。
- スタッフの以前の勤務先は、老人ホームやグループホームなどの同業種が約半数を占める。

年代

Q1：あなたの年代としてあてはまるものをお選びください。（SA）

n=191

50代以上・計
68.6%

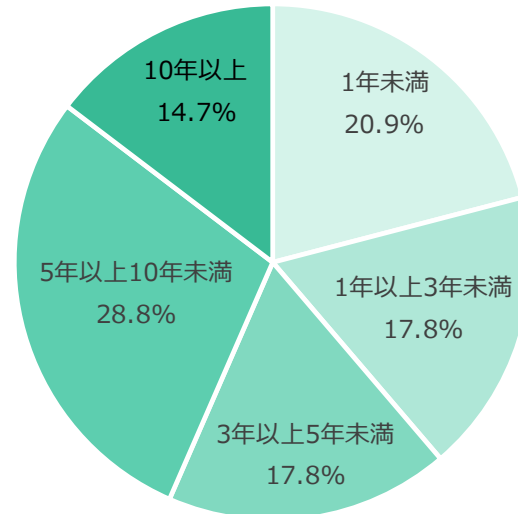


勤続年数

Q2：あなたの現在のホームホスピスでの勤続年数をお選びください。（SA）

n=191

平均勤続年数
5.2年 ※1

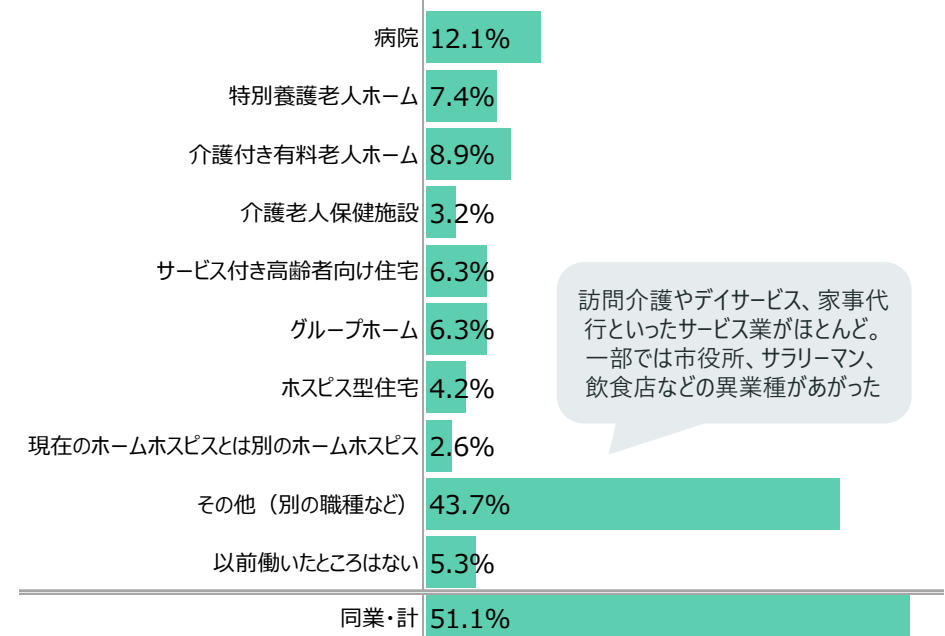


※1:ウェイト平均算出
1年未満=0.5、1年以上3年未満=2.0、3年以上5年未満=4.0
5年以上10年未満=7.5、10年以上=12.5として平均を算出

ホームホスピスの前の勤務場所

Q3：あなたが現在のホームホスピスの前にお勤めされていた職場はどちらですか。（SA）

n=191



訪問介護やデイサービス、家事代行といったサービス業がほとんど。一部では市役所、サラリーマン、飲食店などの異業種があがった

※:同業の定義は下記
「その他」「以前働いたところはない」以外の選択肢の小計

【現場スタッフさま】ホームホスピスケアの実践

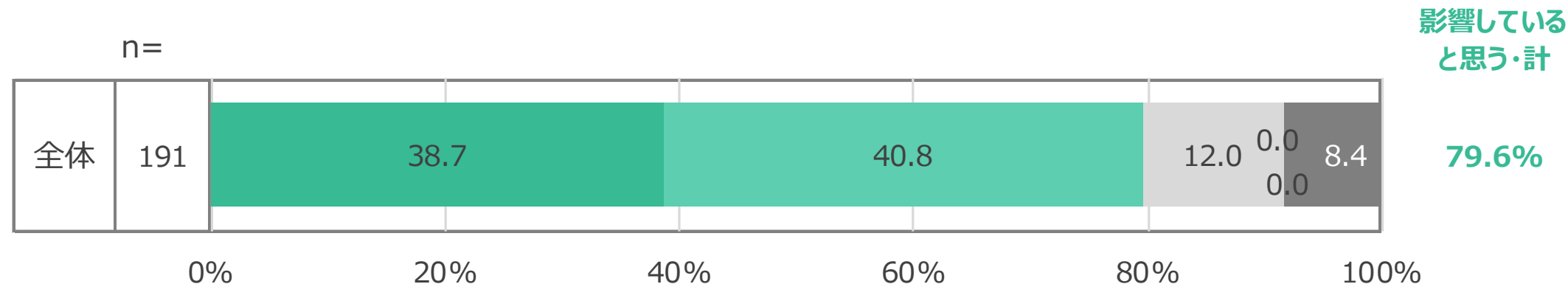
ケアが住人の状態に影響していると思う実感度合い

- 自身の提供しているケアが住人の心身の維持や改善に「影響していると思う」「やや影響していると思う」と答えたスタッフは79.6%。
- また、38.7%が「影響していると思う（TOP1）」と回答し、強く実感をもつスタッフもみられた。

提供しているケアが、住人の心身の状態の維持や改善にどれほど影響していると思うか

Q7：あなたが提供しているケアは、住人のお身体・おこころの状態の維持や改善に、どの程度影響していると思いますか。あなたご本人のお考えで構いませんので、率直に感じていることをお知らせください。（SA）

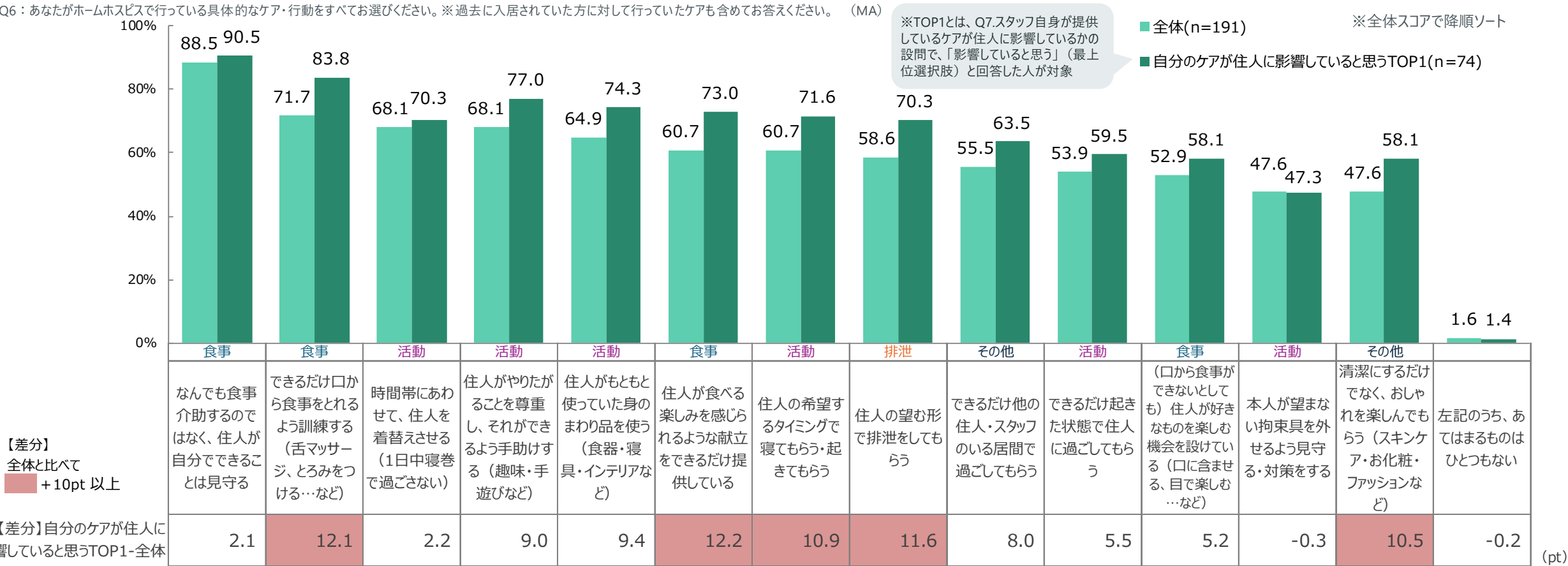
■ 影響していると思う ■ やや影響していると思う ■ どちらともいえない ■ あまり影響していないと思う ■ 影響していないと思う ■ わからない



提供している具体的なケア

- 今回回答したスタッフが提供しているケアについて、《スタッフ全体》《提供しているケアが住人の心身の改善・維持に影響していると思うスタッフ》の2段階に分けて、分析した。
- 提供しているスタッフが多かったケアには、食事における見守りやトレーニング、また、起きた状態で活動的に過ごしてもらうことの支援があがる。
 - 自身が提供するケアが住人に影響していると思う人では、「食事」に関する項目、「住人が望む・希望する形で生活できるようにする」「おしゃれを楽しんでもらう」のスコアが全体と比較して10pt以上高く、こうしたケアが住人の心身の維持・改善につながっている可能性が考えられる。

住人に提供している具体的なケア



【現場スタッフさま】ホームホスピス勤務における満足度

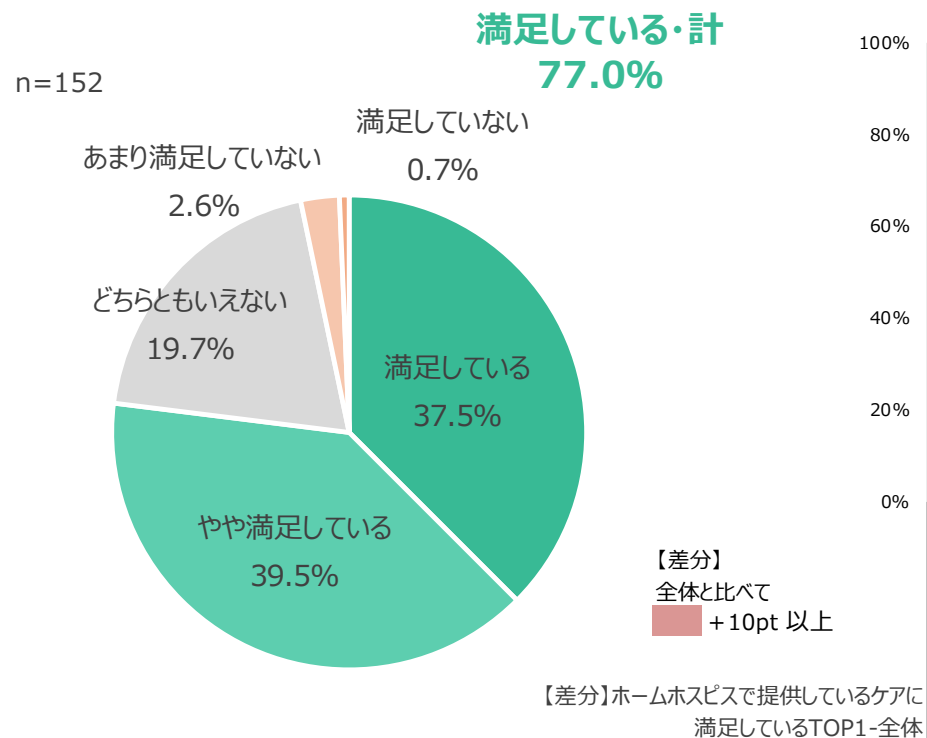
ホームホスピス勤務における満足度

- 以前に同業で勤めていたスタッフの中で、住人へのケアの満足度は「満足している・計」で77.0%に上る。
- ケアに満足している理由では「住人の暮らしの意向を尊重したケアができていると思うから」「自分が提供したケアによって住人の変化が感じられるから」が上位にあがる。

ホームホスピスで提供しているケアに対する満足度

Q11：（以前に別の施設などで働いていた方は以前と比べて）以前のお勤め先であなたが提供していたケアと比較して、現在あなたがホームホスピスで提供しているケアにはどれくらい満足していますか。（SA）

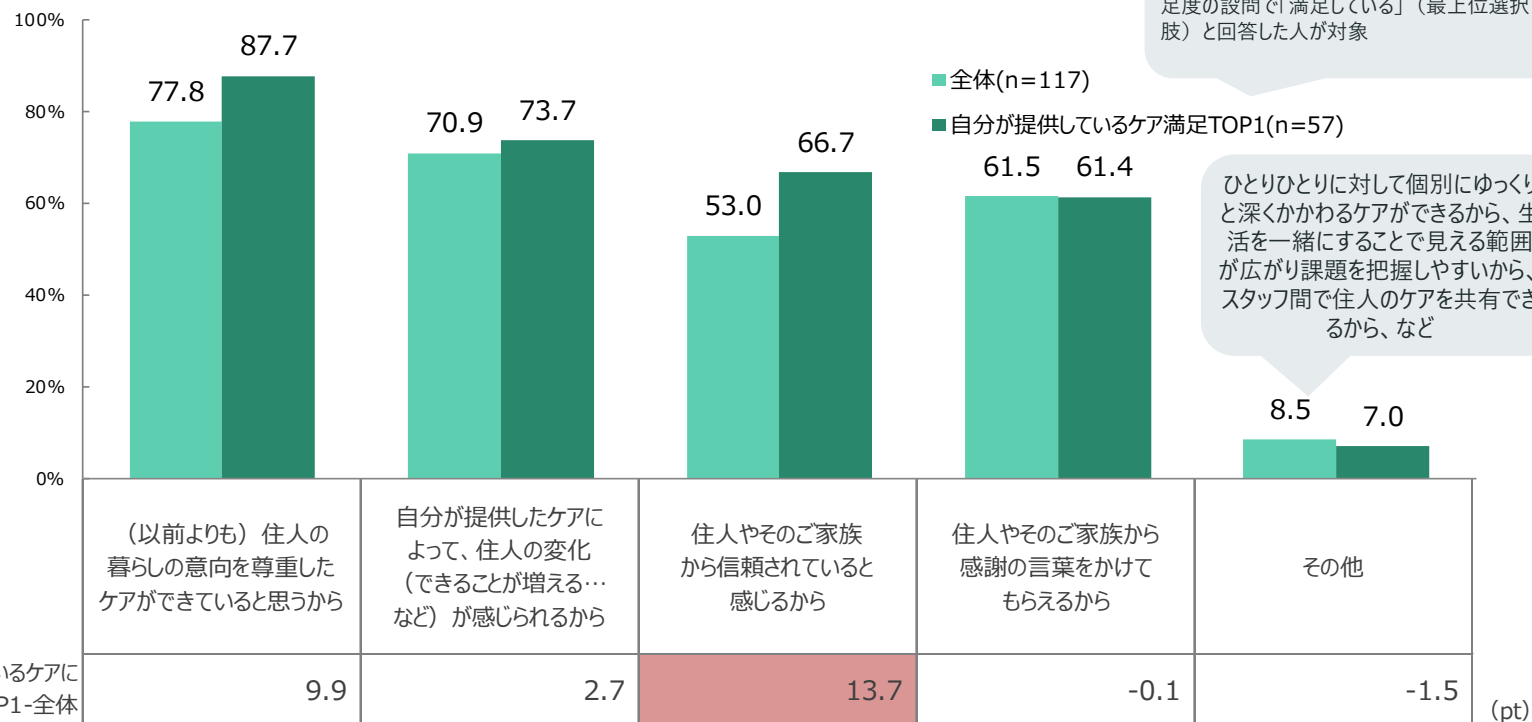
※以前の勤め先が同業ベース



ケアに満足している理由

Q12：前問で「満足」「やや満足」しているとお答えの方に伺います。現在あなたがホームホスピスで提供しているケアに満足しているのはなぜですか。あてはまるものをすべてお選びください。（MA）

※以前の勤め先と比べて、現在ホームホスピスで提供しているケアに「満足している/やや満足している」と回答した人ベース



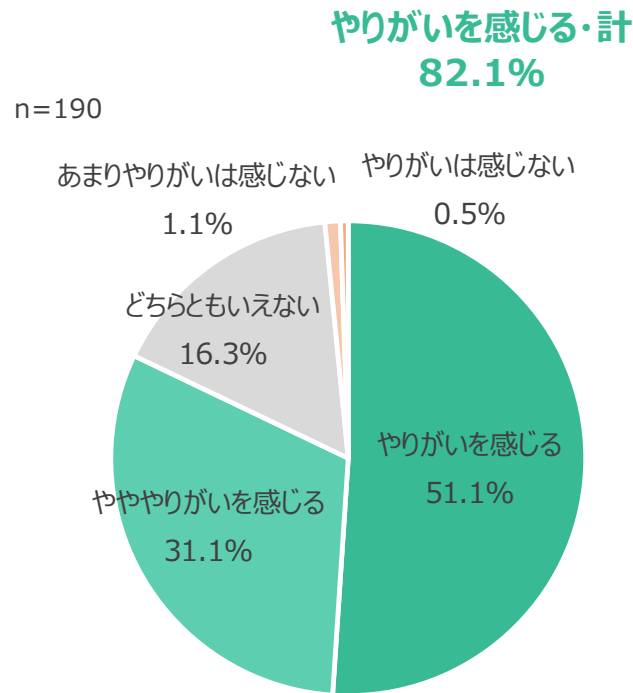
【現場スタッフさま】ホームホスピス勤務におけるやりがい

ホームホスピス勤務におけるやりがい

- ホームホスピスに勤務していることに対し、「やりがいを感じる」スタッフは8割強にのぼる。うち、「やりがいを感じる」においては5割強。前項までの、提供しているケアへの満足度だけでなく、やりがいも強く感じられていることがうかがえる。
- やりがいを感じる具体的な瞬間は、大きくは「住人・家族からの感謝」「住人の変化の実感」「住人の意思の尊重」の3つがあげられた。

ホームホスピス勤務におけるやりがい

Q8：あなたは、現在のホームホスピスでのお仕事に、どのくらいやりがいを感
じていますか。（SA）



やりがいを感じる具体的な瞬間

Q9：あなたがホームホスピスでのお仕事にやりがいを感じる瞬間は、どのようなときですか。どのようなとき・ことでも構いませんので、ご自由にご記入ください。
具体的なエピソードがございましたら、ぜひ教えてください。（FA）

※回答者の性別は聴取していないため、それぞれの性別は回答者の性別を示すものではない

住人・家族から感謝される



本人や家族からここに来て良かったと言われたり、面会が自由で外食も家族と出来てとても嬉しいと言われた
（ホームホスピスセ・ラ・ヴィ）



あなたの夜勤が一番安心する、と言われた
（ホームホスピスくららの家）



残念ながらお看取りとなっても、ご家族と一緒にケアをし、家族から満足した最後だったと言う言葉が聞けた時、やりがいを感じる
（ホームホスピス清水の里）

住人の変化（喜び・行動面）を実感した



歩行出来なかったが、リハビリを受けて歩行出来るようになった
（ホームホスピスはーとの家金町）



食べられなかった住人さんが、食事の形態や食べる姿勢などを工夫して、食べられるようになった
（ホームホスピス宝塚つ・む・ぐの家）



お風呂や、歩行の介助などを終えたあと、住人様が「気持ちよかった」、「頑張れて良かった」などと
言ってくれた
（ホームホスピス風の葉）

住人の意思が尊重できた



少人数な環境で、その人に合わせて生活ができると思う
（ホームホスピス和はの家）



住人様一人一人と密に関われる（他の施設に比べると）
（ホームホスピス里の家）



業務に合わせてではなく、住人のペースにできるだけ合わせられる
（つどいの家ほしぞら）

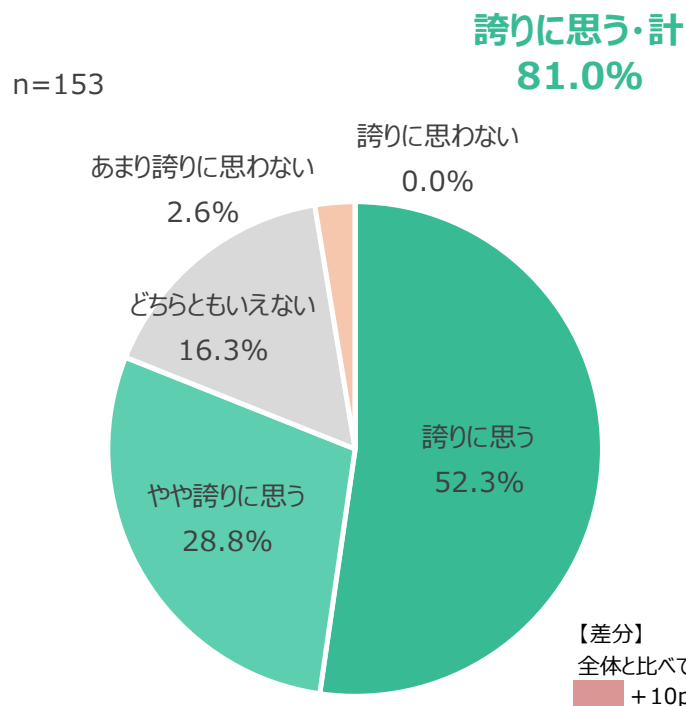
ホームホスピスに勤務することへの誇り

- スタッフによるホームホスピス勤務に対する誇りについては、「誇りに思う・計」で約8割。うち「誇りに思う」は5割強。
- 誇りに思う人で実施している具体的なケアを見ると、住人の望む・希望する形で生活してもらうケアに注力しており、ホームホスピスの理念に寄り添ったケアをより徹底していることがうかがえる。

現在のホームホスピスで勤務していることに対する誇り

Q10：（以前に別の施設などで働いていた方は以前と比べて）現在のホームホスピスで働いていることに対して、あなたはどれだけ誇りに思いますか。（SA）

※以前の勤め先が同業ベース



【差分】ホームホスピスで働くことを
誇りに思うTOP1-全体

住人に提供している具体的なケア

Q6：あなたがホームホスピスで行っている具体的なケア・行動をすべてお選びください。※過去に入居されていた方に対して行っていたケアも含めてお答えください。（MA）

※全体スコアで降順ソート

